

令和6年度

実践の記録

いなよう

第38集

「聞くこと・話すこと」に焦点を当てた国語科の授業づくり

～おもいを伝え合う場面の設定を通して～

(1年次／2年計画)

秋田県立稲川支援学校

## はじめに

校長 小山 高志

きれいな花を見て「きれいだ」と感じる。楽しい活動をしていて「楽しい」と思う。その感情を誰かと共有できたとき、人は心が豊かになります。また、知りたい情報を教えてもらえたとき、誰かが求めている情報を教えることができたとき、伝える楽しさ、伝わる喜びを知っていきます。学校生活において、児童生徒がこのような経験を積み重ね、自分の気持ちを、自分の思いを生き生きと表現できるようになっていくことはとても大切なことであり、その力を引き出していくことは私たち教員の使命であります。

本校では、今年度『聞くこと・話すこと』に焦点を当てた国語科の授業づくり～おもいを伝え合う場面の設定を通して～」を研究主題に設定し、来年度までの2か年の研究として実践と検証を積み重ねてまいりました。

聞くために、話すために使われる「言葉」を育む言語活動は、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となるものであり、国語科はその要となる教科です。今回、県事業「授業づくりプロジェクト」の情報も参考にしながら、国語科の授業づくりに全校で向き合い取り組みました。

1年次の実践では、「聞くこと・話すこと」の力を育てるために必要な授業づくりのポイントを整理することを目的に、各学部で育てたい「伝え合う姿」を明確にした上で授業スタイルの検討を行いました。この実践を通し、国語科の授業をはじめ教育活動全体において言語環境を整えていくことや、教材のもつ魅力をしっかりと研究することの大切さに気付くなど、改めて知的障害教育における各教科の指導について深く考える機会となりました。この取組を「実践の記録いなよう第38集」としてまとめ、報告させていただきます。本実践の記録を御高覧いただきました皆様から、忌憚のない御意見、御助言をいただけますと幸いです。

今後、更なる言語活動の充実に向け、今年度の研究における成果と課題を整理しつつ「一番身近な言語環境は我々教師である」という言葉を心に刻み、2年次の研究と授業改善に取り組んでまいります。

最後になりますが、本研究の推進に当たり、全校授業研究会にて 湯沢市教育委員会 指導主事 北林 尚子 様、湯沢市立山田小学校 教頭 仙道 英悦 様より、たくさんの御指導、御助言を賜りましたことに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

# 目 次

はじめに

校長 小山 高志

第 1 部	研究計画	1
1	研究主題	
2	研究主題の設定理由	
3	研究計画	
4	今年度の研究	
5	研究の実際	
第 2 部	各学部の実践	
I	小学部	8
1	児童の実態と国語科の授業についての課題	
2	育てたい「伝え合う姿」	
3	今年度取り組む国語科の授業スタイル	
4	授業の見取り方	
5	授業実践	
6	「聞くこと・話すこと」の変容、授業づくりの成果と課題	
7	次年度へ向けて	
	【資料：研究部報NO10、11】	
II	中学部	18
1	生徒の実態と国語科の授業についての課題	
2	育てたい「伝え合う姿」	
3	今年度取り組む国語科の授業スタイル	
4	授業の見取り方	
5	授業実践	
6	「聞くこと・話すこと」の変容、授業づくりの成果と課題	
7	次年度へ向けて	
	【資料：研究部報NO12、13】	
III	高等部	29
1	生徒の実態と国語科の授業についての課題	
2	育てたい「伝え合う姿」	
3	今年度取り組む国語科の授業スタイル	
4	授業の見取り方	
5	授業実践	
6	「聞くこと・話すこと」の変容、授業づくりの成果と課題	
7	次年度へ向けて	
	【資料：研究部報NO5、7】	
第 3 部	研究のまとめ	42
1	育てたい「伝え合う姿」、「聞くこと・話すこと」の授業づくりのポイントの整理	
2	成果と課題	
3	次年度へ向けて	
	【資料：R6の実践より、授業づくりのポイント】	

あとがき

教頭 時田 航

研究同人

# 第 1 部 研究計画

## 1 研究主題

「聞くこと・話すこと」に焦点を当てた国語科の授業づくり  
～おもいを伝え合う場面の設定を通して～（1年次／2年計画）

## 2 研究主題設定の理由

### （1）本校の実態

本校は、小学部26名、中学部17名、高等部37名、計80名の児童生徒が在籍している。視覚障害や肢体不自由、病弱、自閉症の特性を併せ有する児童生徒、医療的ケアが必要な児童生徒がおり、さらに高等部では不登校傾向の生徒、集団での学習に参加することが困難な生徒もおり、支援方法等に配慮を要する。

児童生徒の雰囲気は明るく、落ち着いており、大人の話をじっくり聞くことができる児童生徒が多い。また、経験したこと、好きなこと、興味のあることについて積極的に伝えようとしている。一方で、思いの言語化が難しく、伝えることに難儀する様子や一方的なやりとりになる様子、自信のなさや経験不足から伝えることに消極的になる様子なども見られる。このことは、児童同士、生徒同士のやりとりにおいて顕著である。

### （2）令和4、5年度の研究

地域を活用した学習において、児童生徒が主体的に学習活動に取り組み、身に付けた力を発揮するための授業づくりに取り組んだ。地域を授業に取り入れる上でのキーワードを生かした、3学部をつながりのある取組を行い、児童生徒の意欲が向上するための効果的な地域活用（「身近に感じられる」「興味関心に合った」「必然性を感じられる」地域の活用）ができた。また、身に付けた力を生かし、自分で考えながら活動する姿につながる単元設定（繰り返しの単元設定、発展や変化をもたせた単元設定）ができた。

一方で、根拠となるものの活用（学習指導要領、いーなプラン）や児童生徒の振り返りの仕方（理解したことを児童生徒が表現したり、教師が適切に言語化したりして学びを深めること）が課題として挙げられた。

### （3）社会的要請と本校職員の願い

昨年度の研究の課題を踏まえて今年度の研究の方向性を定める際、本校職員へアンケートを行ったところ、本校職員は本校児童生徒に対し、自分の気持ちや考えていること、困っていることについて「伝える力」や「表現する力」を高めてほしいという思いをもっていることが分かった。また、積極的に自分の気持ちを伝えるだけでなく、学年が上がるに連れ、双方向のやりとりや、社会に出る際に必要となるやりとりの力も付けてほしいと願っている。「伝える」「表現する」「双方向のやりとりをする」とことと言葉の力は切り離せない。特別支援学校学習指導要領解説 総則編には「言葉は、児童生徒の学習活動を支える重要な役割を果たすものであり、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となるものである。（中略）言語能力の向上は児童生徒の学びの質の向上や資質・能力の育成の在り方に関わる重要な課題として受け止め、重視していくことが求められる」とあり、言語活動の充実を求めている。

以上のことから、今年度からの研究では、児童生徒の「伝え合う姿」を育てていきたいと考えた。また、言葉を直接の学習対象とする国語科を通して、伝え合うために必要な、言葉を理解し活用する力を育てていくことが有効と考え、授業づくりの場面を国語科とした。国語科「聞くこと・話すこと」に関する授業で「伝え合う姿」を基にした言

語活動を行い、「聞くこと・話すこと」の力を身に付けるための授業づくりに取り組む。

### 3 研究計画

#### 【1年次】

国語科「聞くこと・話すこと」の力を育てるために必要と思われる授業づくりのポイントの整理

#### 【2年次】

国語科「聞くこと・話すこと」の力を育てるために有効な手立てのまとめ

### 4 今年度の研究

#### (1) 研究仮説

国語科「聞くこと・話すこと」の授業において、各学部の目指す「伝え合う姿」を基にした言語活動を行う場面を設定する。そうすることで、児童生徒は「聞くこと・話すこと」の力を身に付けることができる。

#### (2) 研究の内容と方法

##### ① 研究の内容

国語科「聞くこと・話すこと」の力を育てるために必要と思われる授業づくりのポイントの整理

##### ② 研究の方法

ア 各学部で育てたい「伝え合う姿」の設定と国語科の授業スタイルの検討

イ 国語科「聞くこと・話すこと」の単元づくり

- ・教科に対応する学習指導案と単元構想シートの活用
- ・年間指導計画を語る会の実施

ウ 授業づくりプロジェクトからの情報提供

- ・「授業づくりプロジェクト」での研修内容の伝達
- ・全校授業研究会に向けた学部研究への参加、助言

エ 学習指導要領の内容を押さえた伝え合いであるかを検証する授業研究会

- ・全校授業研究会の実施（年3回）
- ・日々の授業協議による授業提示、事後協議

オ 各学部の実態に応じた児童生徒の言語活動の記録

#### (3) 年間計画

期 日	研究会、研修等	備 考
4月23日(火)	研究全体会①	令和6年度の研究についての確認
5月7日(火)	学部研究会①	学部で育てたい「伝え合う姿」について
5月31日(金)	年間指導計画を語る会①	年間指導計画の改善
6月12日(水)	学部研究会②	単元構想シートを用いた授業の構想
7月12日(木)	指導主事計画訪問	各学習グループでの授業提示
7月17日(水)	第1回 全校授業研究会 (高等部1年 国語科)	指導助言者：稲川支援学校 教諭(兼)教育専門監 伊藤 優子
7月30日(月)	学部研究会③	1学期の授業についての評価

8月 2日 (木)	ICT 研修会	図書・情報部との合同開催
9月25日 (水)	第2回 全校授業研究会 (小学部3年 国語科)	指導助言者：湯沢市教育委員会 指導主事 北林 尚子 氏
11月27日 (月)	第3回 全校授業研究会 (中学部3年 国語科)	指導助言者：湯沢市立山田小学校 教頭 仙道 英悦 氏
1月 9日 (木)	年間指導計画を語る会② 学部研究会④	2学期までの成果と課題 2学期の授業についての評価
2月 3日 (月)	学部研究会⑤	各学部の成果と課題
2月25日 (火)	第2回 研究全体会	研究の成果と課題 次年度研究の方向性の確認

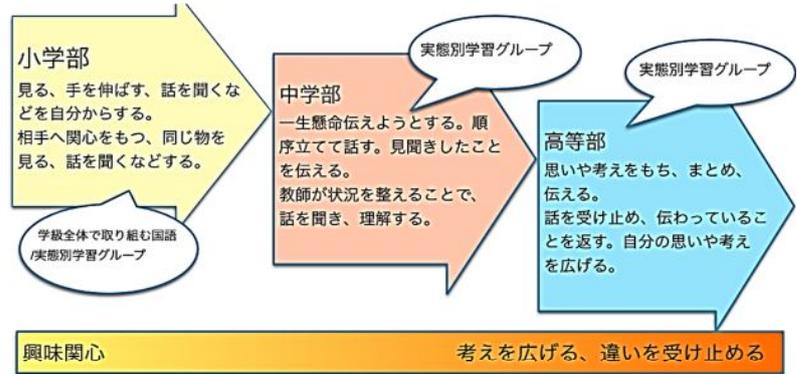
※全校授業研究会に向けた指導案検討等については各学部で適宜実施する。

※必要に応じて拡大研究部会（校長、教頭①②、各学部主事、教育専門監、授業づくりプロジェクト、研究部）を行う。

## 5 研究の実際

### (1) 各学部で育てたい「伝え合う姿」の設定と授業スタイルの検討

各学部で育てたい「伝え合う姿」について、児童生徒の実態を踏まえ、学部研究会や臨時学部研究会、アンケート等を学部ごとに実施し、意見を集約し、設定した。また、今年度国語科で「聞くこと・話すこと」の授業実践する授業スタイルについて検討した。(図は令和6年6月時点での表現。詳細は各学部の実践ページを参照。)

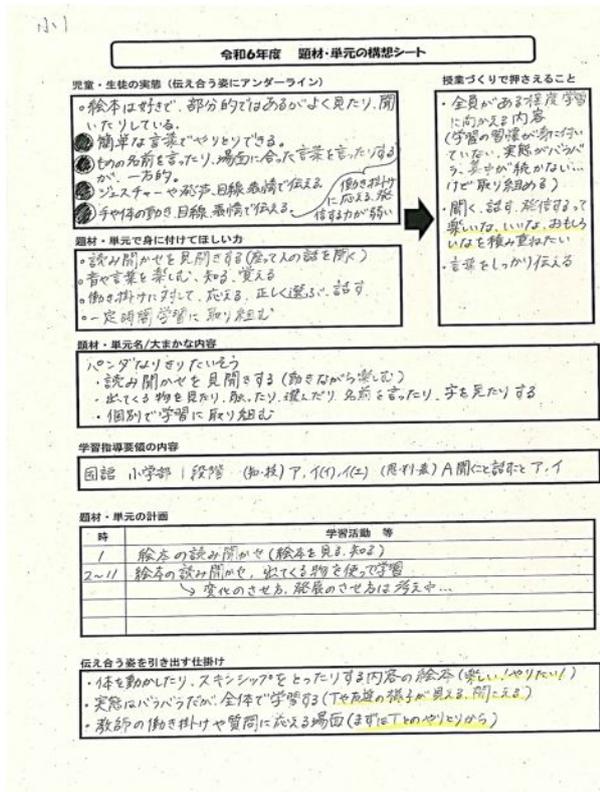


### (2) 「聞くこと・話すこと」の単元づくり

#### ① 単元構想シートを用いた単元づくり

昨年度までの研究で用いた単元構想シートは教科の授業づくりには適していないため、今年度新たに単元構想シートの様式を作成した。授業づくりに当たり、まずは児童生徒の実態を大事にしたいと考え、実態について書く欄を最初に置いた。それを踏まえて「身に付けてほしい力」→「押さえること」を考え、単元を考えるという順番で構成した。

右の写真のように、TTで話し合いながら手書きで記入し、気軽に活用した。指導主事計画訪問で提示する授業づくりで活用した他、各学習グループで日々の授業協議等に向けて活用した。



## ②教科指導に対応する学習指導案を用いた授業づくり

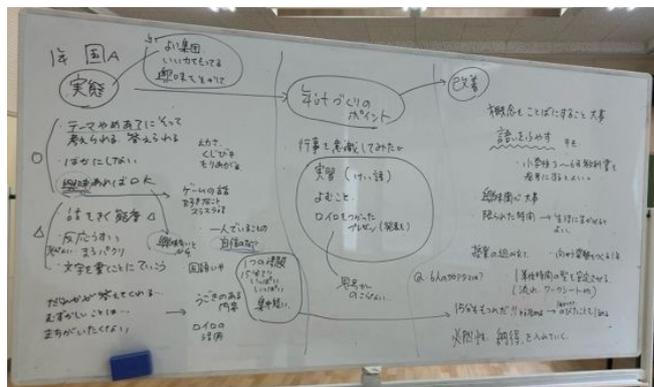
学習指導案の様式について、本校のこれまでの研究が主に教科等を合わせた指導で行ってきたことから、教科の授業づくりに適したものではなかった。そこで、今年度は教科の授業に対応するよう以下の点で改善した。

- ・ 3つの柱で立てた単元目標と3観点に沿って立てた評価規準を照らし合わせて見ることができるようにした。
- ・ 指導観は単元目標に沿って、3つの柱に沿って記載するようにした。
- ・ 指導計画には小單元ごとの評価規準と評価方法を明記するようにした。
- ・ 本時の展開では児童生徒から引き出したい姿、発言を設定し、その姿を引き出すために必要な教師の発問、準備物、手立てを記入するようにした。

## ③年間指導計画を語る会を通じた適切な学習計画の立案、評価

全校授業研究会で授業提示する学習グループについて、他の学習活動との関連や単元間のつながり等を踏まえた妥当性の高い年間指導計画への改善を図ることを目的として、5月31日（金）、学部ごとに「年間指導計画を語る会」を実施し、改善に生かした。

また、全ての学習グループについて今年度実際行った学習と児童生徒の変容について話し合い、年間指導計画作成に当たって大事にしたいことについて探ることを目的として、1月9日（木）、「年間指導計画を語る会2」を実施した。



## ④主発問の検討

全校授業研究会提示授業の指導案検討会では本時の展開を中心に検討した。本時で設定した児童生徒から引き出したい姿、発言を引き出すために適切な教師の発問や準備物、手立てについて、模擬授業などを取り入れながら検討し、改善した。

### (4) 展開

時間(分)	○学習活動 T: 発問 S (または実際の生徒A~C): 引き出したい生徒の反応	◇反応を引き出すための手立て及び留意点 ◎準備物 ◆評価(観点/評価方法)
10	(1) ウォーミングアップ「即興文章」(新出語句を使った文章作り)をする。	◎プリント
8	(2) 本時の学習課題と学習内容を確認する。 <b>Aさんのパンフレットが面白い秘密は?</b> T: 今日Aさんのパンフレット紹介です。前時までの二人のパンフレットもおもしろくて、その場所に行きたくなりましたが、どんな文章があったか見ていきます。 S: 「甘酸っぱい」や「濃厚」が「かざり言葉」でした。 T: そうです。他の文章でも、二人が特に伝えたい部分を「かざり言葉」で上手に表していました。今回もAさんが特に伝えたい部分がどのように飾られているか注目していきましょう。	◎タブレット端末、TV ◇前時の学習内容を思い出すことができるように、前時に扱った文章を掲示する。 (例「仙台駅前にあるお店で、濃厚で甘酸っぱいイチゴタルトがおすすめです。」) ◇めあてを意識して学習できるように、「かざり言葉」の重要性を図示したものを掲示する。

## ⑤指導内容確認表を活用した実態把握

職員アンケートの結果、本校職員は国語科の授業づくりに当たり児童生徒の実態把握に課題を感じていることが分かった。そこで、夏季休業中に、各学習グループから1名児童生徒を抽出し、次ページの写真のように熊本大学教育学部附属特別支援学校で作成された「指導内容確認表」を活用した実態把握を実施し、2学期以降の授業づくりに役立てた。

国語 指導内容確認表		平成29年4月公示 特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領より			平成314
項目	内容	小学部			1段階
		1段階	2段階	3段階	
知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方	ア (7) 身近な人の話し掛けや慣れ、言葉が事物の内容を表していることを知る。  ア (7) 身近な人の話し掛けや慣れ、言葉が事物の内容を表していることを知る。  ア (7) 身近な人の話し掛けや慣れ、言葉が事物の内容を表していることを知る。  ア (7) 身近な人の話し掛けや慣れ、言葉が事物の内容を表していることを知る。	ア (7) 身近な人の話し掛けや慣れ、言葉が事物の内容を表していることを知る。  ア (7) 身近な人の話し掛けや慣れ、言葉が事物の内容を表していることを知る。  ア (7) 身近な人の話し掛けや慣れ、言葉が事物の内容を表していることを知る。  ア (7) 身近な人の話し掛けや慣れ、言葉が事物の内容を表していることを知る。	ア (7) 身近な人の話し掛けや慣れ、言葉が事物の内容を表していることを知る。  ア (7) 身近な人の話し掛けや慣れ、言葉が事物の内容を表していることを知る。  ア (7) 身近な人の話し掛けや慣れ、言葉が事物の内容を表していることを知る。  ア (7) 身近な人の話し掛けや慣れ、言葉が事物の内容を表していることを知る。	ア (7) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉が事物の内容を表していることを知る。  ア (7) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉が事物の内容を表していることを知る。  ア (7) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉が事物の内容を表していることを知る。  ア (7) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉が事物の内容を表していることを知る。
	(2) 情報と情報の関係	イ (7) 物語のはじめと終わりの、情報と情報との関係について理解すること。  イ (7) 物語のはじめと終わりの、情報と情報との関係について理解すること。  イ (7) 物語のはじめと終わりの、情報と情報との関係について理解すること。  イ (7) 物語のはじめと終わりの、情報と情報との関係について理解すること。	イ (7) 物語のはじめと終わりの、情報と情報との関係について理解すること。  イ (7) 物語のはじめと終わりの、情報と情報との関係について理解すること。  イ (7) 物語のはじめと終わりの、情報と情報との関係について理解すること。  イ (7) 物語のはじめと終わりの、情報と情報との関係について理解すること。	イ (7) 物語のはじめと終わりの、情報と情報との関係について理解すること。  イ (7) 物語のはじめと終わりの、情報と情報との関係について理解すること。  イ (7) 物語のはじめと終わりの、情報と情報との関係について理解すること。  イ (7) 物語のはじめと終わりの、情報と情報との関係について理解すること。	イ (7) 物語の順序など、情報と情報との関係について理解すること。  イ (7) 物語の順序など、情報と情報との関係について理解すること。  イ (7) 物語の順序など、情報と情報との関係について理解すること。  イ (7) 物語の順序など、情報と情報との関係について理解すること。
	(3) 我が国の言語文化	ウ (7) 昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。  ウ (7) 昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。  ウ (7) 昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。  ウ (7) 昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。	ウ (7) 昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。  ウ (7) 昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。  ウ (7) 昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。  ウ (7) 昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。	ウ (7) 昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。  ウ (7) 昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。  ウ (7) 昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。  ウ (7) 昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。	ウ (7) 自然や季節の言葉を取り入れた俳句などで、言葉の響きやリズムに親しむこと。  ウ (7) 自然や季節の言葉を取り入れた俳句などで、言葉の響きやリズムに親しむこと。  ウ (7) 自然や季節の言葉を取り入れた俳句などで、言葉の響きやリズムに親しむこと。  ウ (7) 自然や季節の言葉を取り入れた俳句などで、言葉の響きやリズムに親しむこと。

### (3) 授業づくりプロジェクトとの連携

#### ①情報提供

< 1回目 > 5月31日

令和6年5月20日に行われた研修会の内容について、知的障害教育における国語科の授業づくりのポイントとして

- ・児童生徒の実態は生活全体から把握すること
- ・指導計画作成に当たっては実際の生活や体験を通じた学びを大切にすること
- ・星本や解説を活用するなどして教材研究を十分に行うこと の3点が紹介された。



< 2回目 > 2月25日

授業づくりプロジェクトの報告から、知的障害のある児童生徒の言語能力を育成するためには、「教師の言動を含む豊かな言語環境」「表現を受け止めてもらえる安心感」を土台として、「豊かな体験と関連させた表現」を行い「他者からの反応」を得る機会を意図的に設定する積み重ねを通して、表現する気持ちや楽しさを育てることが要点である、との内容が紹介された。

#### ②全校授業研究会に向けた学部研究への参加、助言

全校授業研究会に向けた、各学部で行う単元構想、指導案検討、事前授業研（模擬授業）に同席し、授業づくりプロジェクトの研修内容を踏まえた助言を行うことで改善に役立てた。



#### (4) ICT研修会の実施（8月1日。図書・情報部との共同開催。）

児童生徒の表現を補うためのICT活用について、職員の情報活用能力の向上を図

ることを目的とし、①iPad 入門 (iPad の基本操作、操作についての Q&A)、②写真・Pages・Keynote の共同編集準備、③伝え合う共同編集 (ロイロノートのテスト、アンケート機能等の活用) の3つのグループで研修を行った。授業で活用している例を紹介し、実際操作してみることで、日々の授業でも活用してみようという意欲を持たせた職員が多かった。

## (5) 授業研究会の実施

### ①全校授業研究会の実施

全校授業研究会実施前に、各学部の取組、授業提示をする学習グループの概要、単元の概要をまとめ、本時の指導内容に関連した学習指導要領解説の部分を添付した研究部報を発行し周知した。また、実施後には指導助言や協議での話題をまとめた研究部報を発行し、成果を共有した。(当該研究部報については、各学部の実践のページに掲載。)

<p>第1回 全校授業研究会</p>	<p>高等部1年 国語科 「修学旅行の思い出を聞きに行こう」</p>
<p>&lt;指導助言の主な内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業づくりの基本 (主体的に学ぶための授業展開、指導内容の精選、めあてに対する生徒の自己評価 等)</li> <li>・自立活動の視点に基づいた支援</li> </ul>	
<p>第2回 全校授業研究会</p>	<p>小学部3年 国語科 「もののなまえをおぼえよう～ゲームにチャレンジ～」</p>
<p>&lt;指導助言の主な内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・湯沢市小・中学校の取組の紹介</li> <li>・国語科の授業づくり (言語活動の設定、単元名、学びの実感を得るための言語化 等)</li> <li>・「話すこと」は難しい技術であり繰り返し学んで身に付けていくものであること</li> <li>・子どもが自分の学びを自分で評価することの大切さ</li> <li>・「話すこと」を育てるベースとしての学級経営の大切さ</li> </ul>	
<p>第3回 全校授業研究会</p>	<p>中学部3年 国語科 「稲陽電鉄—私の行きたい街— たくさんの『かざり言葉』で 読んだ人が『行きたい!』と思う文章を考えよう」</p>
<p>&lt;指導助言の主な内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「秋田の探究型授業」の紹介</li> <li>・国語科の授業づくり (板書、相手意識を持たせる工夫 身に付けた資質能力の言語化 等)</li> <li>・生徒同士のやりとりになるための手立て (生徒をつなぐ言葉掛け、ICTの活用 等)</li> <li>・教師が一番身近な言語環境であること</li> <li>・言葉を使うよさ、おもしろさ</li> </ul>	

## ②日々の授業協議による授業提示、事後協議

日々の授業実践の中で研究主題に基づいた授業づくりを意識して行うとともに、授業者以外の評価を得て授業改善に生かし、授業力の向上を図ることを目的とし、1学習グループにつき1回の国語科の授業提示を行った。研究部員と管理職、教育専門監が参観し、授業実践後に改善案について協議した。提示授業の授業づくりに当たっては「単元構想シート」の活用を推奨した。

日々の授業協議での提示授業の概要、児童生徒の変容等については、各学部の実践ページに掲載した。

## (6) 各学部に実態に応じた児童生徒の言語活動の記録

国語科の授業における児童生徒の言語活動の様子を記録し、授業改善に役立てることができるよう、児童生徒の実態に応じた記録の仕方について各学部で検討し、その様式を活用した。

活用した記録用紙の様式については各学部の実践のページに掲載した。

## (7) 職員アンケートの実施

本校教員の国語科の授業づくりへの意識や研究へのニーズを把握するため、春と冬に全職員にアンケートを実施した。

春のアンケートでは、自由記述での傾向として、「発達段階や実態に応じた授業づくり」「言語活動・学び合いの設定」「集団での学習における実態差への対応」「日常生活につながる授業」の4点で難しさを感じている教員が多くいた。

冬のアンケート結果を見ると、春のアンケートと比較し、下図のとおりほぼ全ての項目で得点が上がっていた。このことから、1年間の取組を通して国語の授業力が向上したと実感していることが読み取れた。また、自由記述部分には言語活動の設定で工夫した内容や気づきが多く書かれており、国語の授業づくりへの自信が高まったことが読み取れた。

# 研究アンケートより

### 国語の授業づくりに関する日頃の取組についての評価

上段：春 下段：冬

1…できない 2…あまりできない

3…まあまあできる 4…できる 小数点第2位切り捨て

	小	中	高	
↑ ほぼ全ての項目で向上	2.9	2.7	2.8	子どもの発達の段階に応じた単元(題材)を設定する。(適切な実態把握)
	3.2	2.5	2.9	
	3.0	2.6	3.0	子どもの興味・関心に基づいた単元(題材)を設定する。(興味・関心)
	3.2	2.8	3.1	
	2.6	2.6	2.5	少し難しく、挑戦したいと思える課題を設定する。(内発的な動機)
	2.7	2.7	2.5	
	2.7	2.2	2.4	単元(題材)の目標に迫るため、適切な教材が検討されている。(教材・教具の工夫)
	3.0	2.5	2.8	
	2.7	2.5	2.4	補助具や環境設定の工夫により、一人で活動できる場面づくりがなされている。(環境設定)
	2.7	2.5	2.6	
	2.7	2.2	2.4	単元(題材)をとおして、知識や技能を獲得するための活動量が保証されている。(知識・技能の定着)
	2.6	2.5	2.7	
	2.3	2.4	2.7	一人一人が主体的に考えて、判断し、表現したり活動したりする場を確保している。(主体的な学び)
	3.0	2.8	3.0	
	2.7	2.6	2.6	障害への配慮や認知特性を生かすなど一人一人の学びやすさに対応している。(個への配慮)
	2.8	2.7	2.7	
2.0	2.1	2.7	子ども同士の学び合いの場を設定する。(対話的)	
2.7	2.4	2.6		
2.6	2.3	2.6	一人一人に応じて、内容に易から難、少から多、粗から細などの過程や段階、種類がある。(活動の保障、深い学び)	
2.6	2.7	2.6		
2.6	2.3	2.7	指導方針や効果的な支援のための教師の役割が明確である。(TTの連携)	
2.7	3.0	3.0		

## 第 2 部 各学部の実践

I 小学部

II 中学部

III 高等部

# I 小学部

## I 小学部の実践

### 1 小学部生徒の実態と国語科の授業についての課題

- ・男子21名、女子5名、計26名である。日常生活の場面では、基本的な生活習慣の確立や身辺自立に向けて実態を踏まえた細かな支援を必要とする。
- ・相手の話している内容を理解することが難しい児童が多く、児童が理解できる言葉で伝えることや聞きたいと思える環境づくりが必要である。
- ・伝えることが好きな児童が多い。一方的に話してしまい、相手の話を聞くことが難しいことが課題である。
- ・聞こうとする気持ちや伝える意欲を育てる段階である。

### 2 小学部で育てたい「伝え合う姿」

見る、手を伸ばす、話すなどを自分からする。  
相手へ関心をもつ（共感）、同じ物を見る（共感）、話を聞く。

※小学部段階では、児童同士が伝え合うということは難しく、やりとりの楽しさを感じてほしいという意見が出た。小学部では、伝える意欲を育てる段階であることを共通理解し、児童が安心できる場の設定や伝わる実感を大切にしたいと考えた。

### 3 小学部で行う国語科の授業スタイル

- ・学習内容に応じて実態・課題別の学習グループを設定し、グループ別の学習を行うとともに学級の集団で同じ題材を扱う一斉授業を行う。

### 4 小学部での授業の見取り方

- ・学習グループごとに右の記録用紙を使用して児童の様子を記録した。

小学部研究 国語科 授業記録	
小1 小2 小3 小4 小5 小6	
○題材・単元名 (おはなしをだのしもう～おおきなかぶ～)	
○題材・単元目標 (絵本に登場する人や物や名前を指したり、文字を指して絵カードを選んだりする。絵本の読み聞かせを聞いて簡単な質問に答えたり、自分の気持ちを伝えたりする。教師のせりふをまねたり、アレーションを聞いて自分の役を演じたりする。)	
○授業計画と記録	
時	記録、児童の様子
1 6月25日(火) 準備①	「書棚に刺さるよ」と伝えると「OO(仮名)やりたい」と話す。 Aさん絵本を取りに行く、めあてをEさんが一緒に読む。決めることでCさんも読んでくれるのでは。 Cさん「みんな最後まで聞くこと？」と話す。 読み聞かせは集中して聞いている「うんこしよ、どっこいしょ」と話す。 落ちこぼる場面からしゃべり始めた。 児童への発問の仕方が難しかった。「おじいさんはどれ?」「おじいさんは?」 初めての発問でEさんは恥ずかしく、なかなか自分では話せなかった。
2 7月4日(木) 準備②	学習計画を提示すると「あと3回だね、げきしよう」と読む。(E) 読み聞かせでは進捗がゆっくり読んだ。毎回出てくるフレーズは覚えて話す児童が増えた。Aさんは絵本を注視するようになってきた。 Bさん、Cさんで「おはあさん」「まご」を覚える。一緒に場面②を覚めるようにタブレットに絵本の写真を入れる。Cさんは覚えているページは文字を覚える前に覚えている内容で話してしまふ。 発表場面では、2回目になり、友達に伝えたい気持ちが出てきてBは発表したいことを自分で選んだ(質問カード)
3 7月11日(木) 準備③	これまで学習した言葉のカードを用意した。 いぬーおこーねずみの登場した順番を覚え、 B、Cは発表がますます楽しみに、4人とも個別のグループ学習も発問しをもって集中する様子が見られてきた。 発表場面では話したい、前に立ちたい気持ちは出てきたが、友達の話聞く姿勢はまだまだ難しい。 Aさんは発表の流れが少し分かってきたようだ。 Dさんはその日の気分によるが教師が学習プリントを提示しながら質問することで話すことができた。

### 5 授業実践

※P10に記載

### 6 授業実践を通じた小学部の「聞くこと・話すこと」の変容、授業づくりの成果と課題

#### (1) 生徒の「聞くこと・話すこと」の変容

##### 【聞くこと】

- ・読み聞かせや教師の発問を聞き取ろうとすることが増えた。
- ・よく見たり、絵を指さしたりするようになった。
- ・相手の話を聞いてから答えることができるようになった。

### 【話すこと】

- ・友達の名前を呼んだり、「お願い」と自分から伝えたりできるようになった。
- ・使う材料や工程を覚えて二語文で話せるようになった。
- ・食べ物の名前を覚えたり、はっきりとした発音で話したりできるようになってきた。
- ・自分の考えを言葉で伝えようとしていた。
- ・聞く相手を意識しながら読み聞かせができるようになった。
- ・発表に意欲的に取り組んだり、進んで話したりするようになった。
- ・校外学習でメモを見ながら自信をもって注文できた。

※児童の「聞くこと・話すこと」の変容から今年度の国語科の実践を通して、身近な教師や友達を見たり、相手の話を聞き取ろうとしたりする姿が少しずつ見られるようになり、他者への関心が高まったのではないかと考えられる。

### (2) 授業づくりの成果と課題 (○：成果 ▲：課題)

- 実態に応じた興味・関心のある題材・単元を設定したこと
- 繰り返しの学習活動を計画したこと
- 児童の意欲につながる他者評価の場面を設定したこと
- 楽しみながら聞く場面（読み聞かせ、かるた、伝言ゲーム）を取り入れたこと
- 明確な聞く・話す場面を設定したこと（クイズ、注文する活動等）

- ▲「聞くこと」への意識付けや場面を設定すること
- ▲「伝えたい」「聞きたい」ともっと思えるようなしかけを設定すること
- ▲表出の少ない児童の表現の仕方を見取ること（実態把握や自立活動の課題）
- ▲授業だけでなく、学校生活全般での変容も見とれるような授業記録を活用すること
- ▲国語科と自立活動の実践について検討すること

## 7 次年度に向けて

### (1) 授業スタイル

- ・学年ごとに実態別の学習グループを設定し、同じ題材を取り扱う一斉授業または個別学習を行う。

### (2) 見取り方

- ・授業だけでなく学校生活全般での変容が見取れるような指導記録を活用する。

### (3) 小学部の「聞くこと・話すこと」の授業づくりで押さえないポイント

- ・生活年齢、発達段階に応じた学習内容を設定する。
- ・歌や遊び的な内容や要素を取り入れた題材・単元計画を行う。
- ・年間指導計画の作成に当たって、生活単元学習、遊びの指導と関連させていくことを意識する。
- ・やりとりする相手の広がり意識し、身近な教師や友達と繰り返し関わる。
- ・ねらいや獲得してほしい言葉を明確にし、授業を展開する。
- ・集団学習と個別学習の効果的な取り入れ方を意識した学習計画を行う。

## 5 授業実践

### (1) 小学部 1年

#### ◆児童生徒の実態

- ・男子2名、女子2名。不明瞭ではあるが簡単な言葉で気持ちを伝えることができる児童、指さしや簡単なジェスチャーをする児童、「アー」「シー」などの発声があったり、教師の手を引いて気持ちを伝えたりする児童と、実態に幅がある。
- ・目の前に絵本を提示すると注目するようになってきた。食べることには興味があり、給食時など自分から準備をしたり、自分で食べようとしていたりしている。

#### ◆単元名 「おべんとうバス」

#### ◆単元目標

- ・食べ物の名前を聞いて、物を動かしたり、声を出したり、名前を言ったりする。(思・判・表)
- ・色の言葉を知り、教師と一緒に筆記具を持ったり、自分で持ったりしながら、色を塗る。(知・技)
- ・音や言葉、読み聞かせの楽しさを感じ、言葉を聞こうとしたり、話そうとしたりする。(学、人)

#### ◆学習指導要領の内容

- ・小学部国語科 1段階Aアイ、Cアイ(ウ)

#### ◆授業の実際(日々の授業協議等の記録から)

本時で設定した 伝え合う姿	提示された絵本や物を見る。言葉を聞いて物を動かす。聞いた言葉をまねて言う。やりたいことを伝える。ストーリーに沿って簡単なやりとりをする。
児童生徒の「聞く こと・話すこと」 の学びの様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食べ物の名前を覚えて正しく言ったり、発音をまねて言ったりした。</li> <li>○絵本のストーリーを覚え、自分なりにストーリーを考えて言葉で伝えたり、教師とのやりとりを楽しんだりした。</li> <li>○絵本を目の前に提示すると、絵本をよく見ていた。絵本をめくろうとしたり、絵を指さしたりした。</li> <li>○バスの中に食べ物を入れるということが、分かってきて自分で入っていた。</li> <li>○国語以外の時間に絵本のフレーズを言っていた。</li> <li>▲聞くことに気持ちが向かない様子が見られた。</li> <li>▲聞いて「何をするか」がなかなか分からない様子だった。何度も繰り返すことで分かってきた。</li> </ul> 

#### ◆単元を通した児童生徒の「聞くこと・話すこと」に関する変容と効果的な手立て

変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目の前に絵本を提示すると、よく見たり、絵を指さしたりするようになった。</li> <li>・学習の流れを固定し、繰り返し学習したことで、「食べ物の名前が呼ばれたらバスに食べ物を入れる」ということが分かってきた。</li> <li>・食べ物の名前を覚えたり、はっきりとした発音で話したりできるようになってきた。</li> <li>・自分の考えを言葉で伝えようとしていた。</li> </ul>
効果的な手 立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近なものが登場し、繰り返しのある絵本を題材にすること</li> <li>・流れを固定し何度も繰り返すこと</li> <li>・言葉だけでなく、動きで表現できる活動</li> <li>・落ち着いて学習に向かえる環境や教材</li> <li>・児童の考えや表現を部分的に取り入れること</li> </ul>

(2) 小学部 2 年

◆ 児童生徒の実態

- ・男子 3 名、女子 1 名。うち 1 名が車椅子を使用している。
- ・自分の思いを簡単な言葉で伝えることができる児童と発声や表情、指さしで伝えることができる児童がいる。
- ・4 名とも絵本が好きで普段から読み聞かせを楽しんだり、絵本の気に入ったせりふを話したりしている。

◆ 単元名 「おはなしをたのしもう～おおきなかぶ～」

◆ 単元目標

- ・絵本に登場する人や物の名前を読んだり、文字を読んで絵カードを選んだりする。  
(知・技)
- ・絵本の読み聞かせを聞いて簡単な質問に答えたり、自分の気持ちを伝えたりする。  
(思・判・表)
- ・教師のせりふをまねしたり、ナレーションを聞いて自分の役を演じたりする。(学・人)

◆ 学習指導要領の内容

- ・小学部国語科 1 段階 A ア・イ、3 段階 A ア、1 段階イ (ア)

◆ 授業の実際(日々の授業協議等の記録から)

<p>本時で設定した 伝え合う姿</p>	<p>個別で学習した絵本に登場する人や物の名前を発表する。友達が発表している姿を見たり、聞いたりする。</p>
<p>児童生徒の「聞く こと・話すこと」 の学びの様子</p>	<p>○児童が興味や関心のある題材を選ぶことで教師の読み聞かせに注目したり、好きなせりふを話したりした。</p> <p>○個別で学習する時間を設けたことで自信をもって自分なりの方法で動物の名前を話したり、絵カードを選んだりした。</p> <p>▲「伝えたい」「教えたい」ともっと思えるようなしかけが必要な児童もいた。</p> 

◆ 単元を通した児童生徒の「聞くこと・話すこと」に関する変容と効果的な手立て

<p>変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平仮名への関心が深まった。</li> <li>・読み聞かせや教師の発問を聞き取ろうとすることが増えた。</li> <li>・発表場面で友達や教師に伝えるために自分から話したり、絵カードを選んだりしていた。</li> </ul>
<p>効果的な手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心のある絵本を題材にした授業づくりを行う。</li> <li>・発表場面を設ける。</li> <li>・一人一人に応じた伝えるためのツールを準備する。</li> <li>・まとめで劇発表を行い、他者評価をもらう場面を設定する。</li> </ul>

(3) 小学部 3年

◆児童生徒の実態

- ・男子2名。
- ・1名は平仮名の読み書きと一部片仮名の読み書きができる。自分が経験したことや要求など、伝えたいことを4～5語の単語を羅列して伝える。
- ・1名は、平仮名と片仮名を読むことができ、なぞり書きを練習している段階である。自分から発する言葉は少ないが内言語が多く、単語を話したり、身振りや指さし、カードの平仮名を読んだりして要求や自分の思いを伝えてやりとりする。

◆単元名 「もののなまえを おぼえよう～ゲームにチャレンジ～」

◆単元目標

- ・絵と単語をマッチングしたり、絵を見て平仮名で書いたり、はっきり発音できたりする単語を増やす。 (知・技)
- ・教師の音声を模倣したり、平仮名を読んだりして単語を発音する。 (思・判・表)
- ・伝えたいことを思い浮かべ、身振りや単語などで伝える。 (思・判・表)
- ・自分から言葉で伝えたり、相手の言葉を聞いたりしようとする。 (学・人)

◆学習指導要領の内容

- ・小学部国語科 1段階Aイ、2段階ア(イ)(ウ)、2段階Bイ

◆授業の実際(日々の授業協議等の記録から)

<p>本時で設定した 伝え合う姿</p>	<p>友達が話した言葉を聞いてカードを選んだり、問題の正誤や喜びを言葉や身振りで表現したりする。</p>
<p>児童生徒の「聞くこと・話すこと」の学びの様子</p>	<p>○友達に聞いてもらおうと、名前を呼んでから話したり、聞き取れなかったときに教師と一緒に「(もう一回)おねがい。」と伝えたりした。</p> <p>○単語の読みを練習する際、ペーシングボードを使用したことで、自分で文字を飛ばして読んだことに気付いた。</p> <p>▲表出の少ない児童は聞き手に回ることが多かった。言葉以外の表出の手立てがあるとよかった。</p> 

◆単元を通した児童生徒の「聞くこと・話すこと」に関する変容と効果的な手立て

<p>変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5音節以上の単語の読み飛ばしが多かったが、一文字ずつよく見て読むことができるようになった。</li> <li>・相手の名前を呼んでから話し掛けたり、相手の顔を見て話を聞いたりするなど、話を聞いてもらおう、聞こうとする姿勢がみられるようになった。</li> </ul>
<p>効果的な手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態に応じた教材を準備する。</li> <li>・繰り返しの活動を設定する。</li> <li>・授業で覚えて欲しい単語を精選する。</li> <li>・学んだ単語がカードになるような学習を蓄積できる工夫をする。</li> </ul>

(4) 小学部 4 年

◆ 児童生徒の実態

- ・ 男子 3 名。大人とのやりとりが多いが、児童同士でも自分の思いを簡単な言葉で伝えようとするが増えている。
- ・ 調理学習で作った物を好きな人と一緒に食べたり、自分たちで作った物をプレゼントしたりして、相手に喜んでもらうことが好きである。
- ・ 通常国語は実態に合わせて 2 グループに分かれて個別学習を行っている。

◆ 単元名 「みんなでつくろう！ サンキューやきそば」

※生活単元学習と国語科を組み合わせて単元を構成し、「聞くこと・話すこと」に効果的な学習を国語科として学級で行った。

◆ 単元目標

- ・ 見本の文字の大きさや向きを見て同じように書いたり、貼ったりして招待状を作る。  
(知・技)
- ・ 焼きそば作りの工程や、焼きそばに入りたい物や飲みたいジュース、焼きそば作りの感想などを、単語や二語文で伝える。  
(思・判・表)
- ・ 友達や教師が話した焼きそばに入りたい具や飲みたいジュースを聞き取って、友達や教師に伝える。  
(学・人)

◆ 学習指導要領の内容

- ・ 小学部国語科 3 段階 A イ・ウ、2 段階 A イ、3 段階 A ウ

◆ 授業の実際(日々の授業協議等の記録から)

<p>本時で設定した伝え合う姿</p>	<p>招待する保護者に飲みたいジュースを聞くやり方が分かり、保護者役の教師に質問したり、答えを覚えてたりする。教師や友達のやりとりを聞き取り、選んだジュースを答える。</p>
<p>児童生徒の「聞くこと・話すこと」の学びの様子</p>	<p>○ヒントカードを見て、どんなふうに質問すればいいのかが分かり、教師に一人で質問することができた。 ○練習の時と同じように自宅でも保護者に質問し、飲みたいジュースを聞き取ってくる事ができた。 ▲友達が教師に質問し、答えた内容を聞き取ることは、自分が聞いた答えと一緒にできてしまいがたかった。</p> 

◆ 単元を通じた児童生徒の「聞くこと・話すこと」に関する変容と効果的な手立て

<p>変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 焼きそば作りで使う材料(名詞)や工程(動詞)を覚えて「肉を炒める」等と二語文で話せるようになった。</li> <li>・ 友達の発表を聞いて他の人の飲みたいジュースを覚えたり、「オレンジジュースだよ」と伝えたりすることができるようになってきた。</li> </ul>
<p>効果的な手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活単元学習で扱う物の名前や動作に関する言葉を、個別で行う国語でも学習する。</li> <li>・ 材料や飲みたいジュース等、自分の思いを話したり、意見が違ったときに教師と児童で話し合ったりする時間を設ける。</li> <li>・ 保護者を招待し、「作りたい」「伝えたい」という意欲を喚起する。</li> </ul>

(5) 小学部 5 年

◆ 児童生徒の実態

- ・男子 5 名。1 名は強い光を感じる程度の視力であり、また発語がなく、車椅子を使用しており、時間における自立活動を行っている。
- ・自分の思いを言葉で伝えることができる児童、簡単な単語や 2 語文で伝える児童、発声や表情、身振り等で伝えることができる児童がいる。
- ・普段は実態に合わせて 3 グループに分かれて国語／自立活動の授業を行っている。

◆ 単元名

「おみせやさんへいこう～なるほど！うまい！マクドナルド①」

※生活単元学習と国語科／自立活動を組み合わせて単元を構成し「聞くこと・話すこと」「コミュニケーション」に効果的な学習を国語科として学級で行った。

◆ 単元目標

- ・買い物におけるやりとりの仕方を覚える。 (知・技)
- ・買い物における簡単な受け答えをする。 (思・判・表)
- ・校外学習で伝えたい気持ちや注文したい気持ちをもつ。 (学・人)

◆ 学習指導要領の内容

- ・小学部国語科 3 段階ア (ア)、3 段階 A エ、3 段階ウ

◆ 授業の実際(日々の授業協議等の記録から)

本時で設定した伝え合う姿	友達や教師と「いらっしゃいませ」「～ください」などお店屋さんで注文する際の受け答えをする。
児童生徒の「聞くこと・話すこと」の学びの様子	<p>○友達と役割を交代しながら、お店屋さんとお客さんになって注文の際の受け答えをした。前時に練習したことや小道具を使用したことなどで、楽しみながらスムーズに受け答えができた。自立活動対象児童も友達の声を聞いて笑顔を見せるなど、集団で学習する良さが見られた。</p> <p>▲聞く活動として絵本の読み聞かせなどを取り入れてもよかった。</p> <p>▲雰囲気味わえるように、ハンバーガーショップの音や映像の店員と練習できる教材など、ICTの活用の仕方を工夫するとよかった。</p> 

◆ 単元を通した児童生徒の「聞くこと・話すこと」に関する変容と効果的な手立て

変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お店屋さんでの受け答え（「～ください」など）を覚え、相手の話を聞いてから答えることができるようになった。</li> <li>・校外学習でメモを見ながら自信をもって注文できた。</li> <li>・家族と外出した際に自分で食べたいものを注文できた。</li> </ul>
効果的な手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が興味をもっているハンバーガーショップへの校外学習を題材として取り上げる。</li> <li>・写真を取り入れた自分の注文メモを作成する。</li> <li>・お店屋さんとお客さんの役割を設定する。</li> <li>・ハンバーガー、ポテト、ドリンクなどの小道具を用意し、ロールプレイをする場面を設定する。</li> </ul>

(6) 小学部 6年

◆児童生徒の実態

- ・男子2名、女子1名。うち1名が車椅子を使用しており、時間における自立活動を行っている。
- ・自分の思いを簡単な言葉で伝えることができる児童と発声や表情、身振り等で伝えることができる児童がいる。
- ・「にこにこおはなしたい」の学習は昨年度から行っており、紙芝居を作る、発表するという学習の流れにどの児童も見通しをもって意欲的に取り組んでいる。

◆単元名 「にこにこおはなしたい～おはなしをつたえよう～」

◆単元目標

- ・絵本のイラストと同じ色で線からはみ出さないように色を塗ったり、視写などで絵本に出てくる単語や文を書いたりして紙芝居を作る。 (知・技)
- ・相手に聞こえる声の大きさや、聞き取りやすいスピードを意識して紙芝居を発表する。 (思・判・表)
- ・自分の役割やせりふが分かり、友達と協力して紙芝居を発表する。 (学・人)

◆学習指導要領の内容

- ・小学部国語科 3段階Aア、2段階Bイ、3段階Cアイエ

◆授業の実際(日々の授業協議等の記録から)

<p>本時で設定した伝え合う姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本に出てくる単語(アナグラム)を正しく作り、発表する。</li> <li>・発表する単語のイラストを友達と受け渡ししたり、答えを確認し合ったりする。</li> </ul>
<p>児童生徒の「聞くこと・話すこと」の学びの様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○紙芝居作りなどを通して学習している単語(アナグラム)を使用することで、自信をもって大きな声で発表した。</li> <li>○答えを確認し合うことで、友達の発表に注目して聞いた。</li> <li>○絵本に出てくる言葉を書く学習を行うことで、物語の理解が深まり、その後の発表練習ではせりふをよりはっきり話した。</li> <li>▲話すこと場面が多くなり、聞くこと場面設定が足りなかった。</li> </ul> 

◆単元を通した児童生徒の「聞くこと・話すこと」に関する変容と効果的な手立て

<p>変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会という単元のゴールが分かり、「見てほしい」「聞いてほしい」という気持ちがより高まった。</li> <li>・身近な教師や家族の前で発表し、アドバイスをもらう時間を設定することで、「大きな声」「ゆっくり」「前を見て」などの相手に伝わるために気を付けることを意識して発表しようとする気持ちが高まった。</li> <li>・発表することへの苦手意識、抵抗感がなくなり、発表に意欲的に取り組んだり、進んで話したりするようになった。</li> </ul>
<p>効果的な手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「紙芝居を作る→発表する」という学習活動を、発表するお話を変えて繰り返し行ったこと。</li> <li>・発表練習の際、家族や身近な教師にアドバイスをもらう他者評価の場面を設定する。</li> <li>・発表練習の際、動画を撮影し振り返る自己評価の場面を設定する。</li> </ul>

## 第2回 全校授業研究会(小学部、9/25)の見どころ

### 小学部で育てたい「伝え合う姿」(7月時点)

一方的になりがちではあるが、伝えることが好きな児童が多い。安心できる場で、興味関心のある事柄、経験したことを通してやりとりの楽しさを感じられるようにしたい。

○見る、手を伸ばす、話すなどを自分からする。

○相手へ関心をもつ(共感)、同じ物を見る(共感)、話を聞くなどする。

小学部では「伝え合う」(双方向のやりとり)ことがまだ難しく、伝える意欲や方法を育てる段階であることを学部職員で共通理解してきました。グループ協議では、本時の目標を達成するための言語活動はどうあればよいか、「聞くこと・話すこと」の学びの様子が見られたか、効果的だった手立てについてご意見をいただけるとありがたいです。よろしくお願いします。

### 小学部3年国語1グループは…

AさんとBさんの二人のグループです。二人は突っつき合ったり追いかけあったり、おぶさり合ったりといった、身体接触をして楽しむ仲よしです。

Aさんは絵本が好きで、この頃気に入っているのは「番長シリーズ」。国語では4音節以上の単語や、「う」や「い」や「ん」など発音したときにはっきりと聞こえない音が含まれる単語を書いたり発音したりするのが課題です。

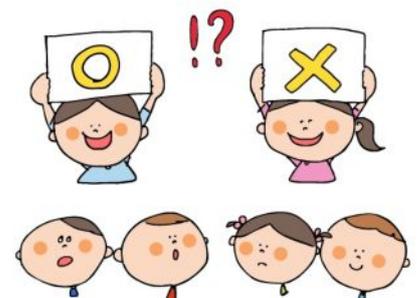
Bさんは乗り物が好きです。国語では自分から発する言葉は少ないけれど、平仮名や片仮名で書かれていると声に出して読むことができます。聞いて理解できる単語もたくさんあります。

これまでの国語ではクイズに取り組みました。文を読む人、聞き取る人と役割を分け交代して取り組むことで、相手に注目して言葉を聞き取ることや、相手に伝わった喜びを感じることができました。この学習を通して、話を聞く態度や言葉の良さを感じる素地が育ってきています。

### 今回提示する授業では…

「ひこうき」「しんかんせん」という、Aさんの苦手な4音節以上の物の名前が登場します。二人で話したり、書いたり、読んだり、聞いたりして物の名前を覚えます。

授業後半の「つたえるゲーム」で話す、聞く、選ぶ、友達の答えを受け止めるという活動を通して学びを深めます。学習を繰り返す中で育ってきた「聞いてほしい」「聞き取りたい」という二人の姿にもご注目ください。



# Create

## 第2回全校研を終えて、今後生かしていきたい授業づくりの視点

前期の評価や稲陽祭準備等での忙しい中、第2回全校授業研究会の授業提示、参観、協議、ありがとうございました。指導助言とグループの協議で出された改善案から、今後授業づくりに生かしていきたい内容について、以下にまとめます。

### 指導助言（湯沢市教育委員会 指導主事 北林尚子先生）より

#### 湯沢市の授業づくりについて

- 令和6年度湯沢市学校教育キーフレーズは「学びに向かう力を鍛える」。子どもたちが見通しをもって粘り強く取り組み、主体的な学びを実感できる授業づくりに取り組んでいる。

#### 国語科の授業づくりについて

- 通常学級では言語活動を通して指導事項を指導することとなっている。言語活動例は学習指導要領に記載されている。一方、知的障害特別支援学校では、言語活動例を示していない。国語科の目標が達成されるよう、言語活動を創意工夫することが教師の役目である。

#### 本時の授業について

- 単元名は、その単元で身に付ける資質・能力を子どもに伝えるもの。副題で何を通して学ぶのか、ということ伝える。
- 学習指導案の形式、記載が、学習指導要領の内容に沿っていて◎。本時の展開のシナリオがよい。子どもの思考をシミュレーションし、つまずきが予想される部分に向けて手立てを考えている。
- 興味・関心を引き出す題材だった。カブトムシ、車、飛行機、など、たくさんの単語が出た。
- めあてを伝えるときの「〇〇ができるようになるよ」という言葉掛けがよかった。
- 一人で活動する時間の確保があったことがよい。個から集団への流れがよい。
- 「伝えるゲーム」で正解した際「〇〇さんの声が聞きやすかったから正解できたね」などの価値付けがあった。つまずきの過程を言葉にすることが大切。学びの実感につながる。

#### その他

- 「話す」はとても難しい技術。繰り返し学んで身に付けるもの。今できなくても、別で補えばよい。
- 振り返りについて。湯沢市の特別支援学級では振り返りシートを用意し、できたことに子どもが○を付けている。子どもが自分で評価することが大事である。
- 一番大事なものは、学級づくり。授業者の穏やかな笑顔が印象的だった。学びに向かう安心感につながっている。

提示授業のよかった点を取り上げながら、湯沢市の取組を踏まえて国語科の授業づくりで大切なことを丁寧に教えていただきました。

### グループ協議で出された改善案より

- 学習の定着を図るために、学習成果を掲示して他の先生にも声を掛けてもらう機会を増やす。
- 「伝えたい」「聞きたい」という気持ちをもって学習に取り組んでいた。取り扱う言葉を名詞＋動詞など、ステップアップさせる。
- 「伝え合う姿」を高めていくために、「惜しい」「よく聞いて」などの伝え方を教える。
- ペーシングボードを様々に変化させ、繰り返し取り組む。

※以上、第2回全校授業研究会で得られた授業づくりの視点を、国語の授業づくりに生かしていきましょう。

# Ⅱ 中学部

## Ⅱ 中学部の実践

### 1 中学部生徒の実態と国語科の授業についての課題

- ・男子13名、女子4名、計17名である。日常生活の身辺処理の実態は、ほぼ自立している生徒から全般において支援が必要な生徒までと様々である。
- ・生徒の多くは、自身が経験したことや興味のあることについて一生懸命伝えようとするが、順序立てて伝えるなど「相手に伝わりやすくする」という意識が薄く、話が一方的になったり、まとまらず話したりすることがある。
- ・発達段階や障害特性によるものなどから、興味関心の幅が狭く、題材や単元の設定に更なる工夫が必要である。
- ・国語科の授業で学んだことを生活に般化させるための場面設定の工夫や単元の取り上げ方に課題がある。

### 2 中学部で育てたい「伝え合う姿」

『伝える（伝えてくれる）相手を意識して、  
自身の「聞く・話す」表現を工夫しようとする姿』

※生徒の実態が幅広いため、具体化した表現が難しい。そのため、小学部段階から高等部段階へのつながりを意識し、関わる相手の広がり、伝え合う内容のステップアップ（社会的要望）などを考慮した上で必要な中学部段階として求める姿として捉えた。

### 3 中学部で行う国語科の授業スタイル

- ・学年ごとに実態・課題別の学習グループを設定し、同じ学習課題に向けた一斉授業を行う。

### 4 中学部での授業の見取り方

- ・生徒の実態に応じた振り返りの実施（ワークシート、板書）
- ・授業だけにとどまらず、生活における変容場面のエピソードの記録

### 5 授業実践

P20に記載

### 6 授業実践を通した中学部の「聞くこと・話すこと」の変容、授業づくりの成果と課題

#### (1) 生徒の「聞くこと・話すこと」の変容

○友達や教師の話に注意深く聞こうとする姿

→授業の伝え合う場面の際の変容以外にも、教師の話に聞く姿勢が向上するなどの様子も見られた。また、聞こうとする態度の高まりと繰り返しの活動を通して、授業中の指示などの聞き洩らしが減り、授業がスムーズに進行することが多くなった。

○自分の思いを周囲に一生懸命伝えようとする姿

→生徒やグループの実態に応じて、日常生活と関連付け、生徒が興味をもてる活動を積極的に取り入れたことで、生徒たちが自分の思いを言葉や手話などで生き生きと発表する場面が多く見られた。また定型文や話型を提示したり、修飾語等の語句一覧表を活用したりすることで、友達に伝わりやすい発表ができるようになった。

上記の内容以外にも、学校生活の中で、自分から教師に話し掛けることが増え、意見や気持ちをより詳しく話そうとしたことや、他の学習で文章を書くときに内容を推測することが増えた場面など、普段の学校生活での変容もうかがえるエピソードが挙がっ

たことは、本実践の成果の一端であると考えてる。

## (2) 授業づくりの成果と課題

＜成果＞

- 生徒の伝え合う姿を引き出す効果的な手立てが整理できた（表1）。
- 年間指導計画を語る会などを通して、国語の授業づくりでは、生活や他教科・行事と絡めた題材の設定をして、繰り返しできる取組（パターン化）、興味をもたせる工夫、得意なことと苦手なことのバランスをとることが重要であることを共通認識することができた。

＜課題＞

- ▲物や気持ちを表す語句の正しい意味と生徒の捉えるイメージが一致していなかった。
- ▲普段の生活での定着や活用の変容を客観的に見取ることができなかった。

	伝え合う場面の設定で大切な視点	具体的な手立て
1	見通しをもてるようにする	パターン化、繰り返しの活動
2	興味をもてるようにする	好きなことや友達のこと、家庭との連携
3	イメージしやすくする	経験したことイラストや写真の提示
4	表出できる語句を選んだり、考えたりできるようにする	語句一覧表 話型の提示
5	構成要素が理解できるようにする	5W1Hの提示

表1 「伝えま表」（仮称）

以上のことから、先述した「国語科の授業についての課題」に対して一定の改善が図られたことが分かる。しかし、課題に挙げた普段の生活での定着や活用の変容を客観的に見取ることができなかった点に対しては、引き続き指導方法を模索する必要があると考える。改善策としては、成果に挙げた生活や他教科・行事と絡めた題材の設定を学部全体で取り上げ、生徒の興味関心や実態に応じて、抽出する生活場面や他教科・行事を絞り、年間指導計画に反映させていくことだと考える。

## 7 次年度に向けて

### (1) 授業スタイル

今年度のグループ編成を継続していく。

### (2) 見取り方

今年度の見取り方に加え、学部研を活用して、生徒（抽出や事例など）の国語科の授業の様子と生活場面の変容について語る会を設定し、関連性を検証する。

### (3) 中学部の「聞くこと・話すこと」の授業づくりで押さえないポイント

今年度の研究で整理することができた「授業づくりのポイント」（P44参照）と「伝えま表」（仮称）を用いた授業づくりの実践を行う。また、実践を通して新たに考え出された手立てや伝え合う場面における大切な視点などを整理し、「伝えま表」の改良をしていく。

年間指導計画を作成する段階において、生活や他教科・行事と絡めた題材づくりを反映させる。また生活や他教科・行事を絡める際は、振り返りの活動を基本にすることや、行事を通して実際に感じた思いや感情を大切にして国語科の目標や視点を取り入れた授業づくりに取り組んでいきたい。

## 5 授業実践

### (1) 中学部1年 Aグループ

#### ◆生徒の実態

- ・車椅子を使用する男子1名。
- ・普段から家庭でタブレット端末を操作し、好きなアニメなどの動画視聴を楽しんでいる。
- ・発語はほとんどないが、教師や友達と視線を合わせたり、手を挙げたりするなどの簡単な動作を繰り返すと、まねることができる。
- ・平仮名や片仮名を理解し、なぞり書きができ、集中して取り組んでいる。
- ・イラストや写真を指さし、その名称や内容を他者に話してもらうことを好む。また、繰り返し発音すると喜ぶ。

#### ◆単元名「なまえと うごきを あわせよう」

#### ◆単元目標

- ・身近な動物や物の名前が分かる。(知・技)
- ・絵本、紙芝居、テレビなどの視聴覚教材を見たり、聞いたりして、興味のある物を手話で表す。  
(思・判・表)
- ・動画や教師の手話をまねる。(学・人)

#### ◆学習指導要領の内容

- ・小学部国語1段階ア(イ)、小学部国語2段階ア(ウ)

#### ◆授業の実際

本時で設定した伝え合う姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部分抽出した動物の動画やイラスト等をタブレット端末で見たり、教師が話した動物等の固有名詞を聞いたりして、自分から手話で表す。</li> </ul>
生徒の「聞くこと・話すこと」の学びの様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>○動画やイラストを提示するとともに、音声で「サイ」「コアラ」などの動物の名前を伝える活動を繰り返すと、教師のまねをして手話を行った。</li> <li>○タブレット端末を操作することに興味をもち、イラストや動画を繰り返し見た。</li> <li>▲アクセスガイドを設定した上でも、タブレット端末を手渡すと、動画を繰り返し見る等、学習内容に関係ない操作に対しての対処が必要であった。</li> </ul> 

#### ◆単元を通した生徒の「聞くこと・話すこと」に関する変容と効果的な手立て

変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めは、教師がやってみせる手話をまねていたが、音声だけ伝えても、10個程度の動物の名前を手話で表すことができるようになってきた。</li> </ul>
効果的な手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の興味関心、好きな学校、家庭での余暇活動を把握し、学習内容に教材として取り入れる。</li> <li>・シートに、写真やイラストとともに固有名詞を文字で記載し、提示する。</li> </ul>

(2) 中学部1年 Bグループ

◆生徒の実態

- ・男子2名、女子1名。様々な学習に意欲的に取り組んでいる。
- ・1名は話を聞くことが好きで、クイズ形式にすることで、より注意を向けて聞き取る。ワークシートの文型を参考にして、自分が経験したことを三語文の文で表現する。
- ・1名は言語不明瞭だが、指さしや身振り、五十音表などを使ってやりとりできる。簡単な指示を理解し行動したり、質問に答えたりできる。選択肢を用意することで、これまでの行事や学習の写真を見ながら教師と一緒に三語文を完成することができる。
- ・1名は話すことを好むが、ポイントをしばって話すことは難しい。ワークシートの文型を参考にして三語文の文を完成し、発表する学習にほぼ一人で取り組むことができるようになってきている。

◆単元名 「聞こう、話そう～宿泊学習の思い出～」

◆単元目標

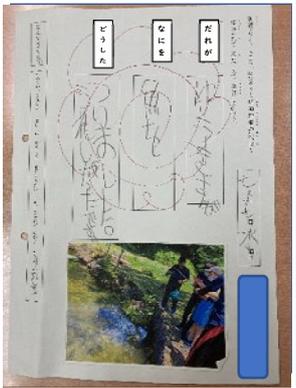
- ・出来事や経験したことを伝え合う体験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れる。 (知・技)
- ・宿泊学習の写真を選び、経験したことを思い浮かべ、「だれは(が)」「なにを」「どうした」カード(シート)や選択肢の中から選んで三語文を考える。 (思・判・表)
- ・友達の発表やその後のクイズの問題をよく聞いて内容を把握しようとしたり、クイズの答えを出そうとしたりする。 (学・人)

◆学習指導要領の内容

- ・小学部国語3段階ウ(イ)、小学部国語3段階Aイ

◆授業の実際

<p>本時で設定した伝え合う姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊学習を思い浮かべ、写真を見て作成した三語文を発表し合う。</li> <li>・発表内容に関連したクイズの答えについて、それぞれ考えて発表したり、友達に話し掛けて答えを知ろうとしたりする。</li> </ul>
<p>児童生徒の「聞くこと・話すこと」の学びの様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○楽しかった宿泊学習を題材にしたこと、好きな写真を選択する場面を設定したことで、それぞれが経験したことを思い浮かべて学習に向かい、三語文を考え発表した。</li> <li>○ワークシートや生徒に合った選択肢を用意したことで、文型にあてはめて三語文を完成できた。</li> <li>▲授業の展開の時間配分をうまく設定できず、生徒が三語文を完成しても、発表する時間が足りないときがあった。また、発表する際も情報機器などを使って大きい画面に選んだ写真や完成した三語文を映し出すなどの工夫が欲しかった。</li> </ul>



◆単元を通じた児童生徒の「聞くこと・話すこと」に関する変容と効果的な手立て

<p>変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の発表を聞き流すことが減り、注意深く聞いてからクイズに答えるようになった。</li> </ul>
<p>効果的な手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真選び→文作り→発表→クイズの流れを統一し、生徒が見通しをもてるようにする。</li> <li>・発表後に聞き取りのクイズを取り入れる。作成するクイズの答えは、名詞や修飾語などよりも、行動で表しやすい動詞にするのが良かった。</li> <li>・経験した行事や学習を題材にする。(人物が何をしているか一目で分かる写真を用意)</li> <li>・「だれは(が)」「なにを」「どうした」の文型ワークシートを用意する。</li> <li>・書くとき、写真に印を付けて注目を促したり選択肢やヒントを用意したりする。</li> </ul>

### (3) 中学部1年 C グループ

#### ◆生徒の実態

- ・男子3名の学習グループである。うち1名は9月末に転出している。
- ・言葉でのやりとりができ、友達や教師と自分の好きなことや興味のあることについて会話をする。
- ・興味・関心のある話題であれば、集中して話を聞いたり、質問に答えたりする。一方、興味・関心がない話題や集団に対する一斉指示等に関しては集中して聞き続けることが難しく、離席したり、話の内容を聞き落としたりすることがある。

#### ◆単元名 「クイズをしよう ～2+1ヒントクイズ～」

#### ◆単元目標

- ・物の特徴や様子を言葉で表し、ヒントを出す。(知・技)
- ・クイズをよく聞いて、聞いたことを基に質問をしたり、質問に答えたりする。  
(思・判・表)
- ・相手が正解に近づくように言葉でヒントを伝えたり、相手の話をよく聞いて理解しようとしたりする。(学・人)

#### ◆学習指導要領の内容

- ・中学部国語1段階ア(ア)、Aア

#### ◆授業の実際(日々の授業協議等の記録から)

本時で設定した 伝え合う姿	ヒントとして果物の特徴や様子を友達に伝える。友達のクイズやヒントを聞き、分からないことや聞きたいことを質問する。
児童生徒の「聞く こと・話すこと」 の学びの様子	<p>○「長さが15cmくらい」というヒントを出すときに、併せて手で長さを示して説明した。</p> <p>○スリーヒントクイズのうち出題者が2つのヒントを出し、解答者が1つの質問をするというルール設定にすることで、出題されたヒントを集中して聞き、話題に沿った質問をした。</p> <p>●「重さは200gくらい」という説明を聞いて、「答えはさくらんぼですか?」と聞くなど、言葉とイメージが一致していない場面があった。</p>



#### ◆単元を通した児童生徒の「聞くこと・話すこと」に関する変容と効果的な手立て

変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クイズ形式にして質問をすることで、注意深く話を聞くようになった。</li> <li>・聞いた話の中で分からない言葉があったときに、「分からない」と伝えるようになった。</li> </ul>
効果的な手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「物の特徴や様子に関するイメージマップを作る⇒クイズを作る⇒出題する」の流れを単元の中で繰り返す。</li> <li>・実物を触ったり、匂いを嗅いだり、長さを測ったりしてイメージを実感しながら、言語化する。</li> </ul>

(4) 中学部2年 A グループ

◆ 生徒の実態

- ・男子2名。学校での様々な活動に関心をもっており、意欲的に取り組んでいる。学習の段階に個人差はあるものの、個々の目標に向かい学習に取り組んでいる。
- ・1名は日常会話が可能であるが、自分の気持ちや意見、感想をうまく伝えられずに不安定になり学習に参加できないことがある。簡単な文章は書くことができるものの、助詞や接続詞の使い方が不正確なことがある。漢字の混じった文章を読むときはルビを振ると読むことができる。
- ・1名は言語不明瞭だが、単語や身振りで自分の気持ちを伝えることができる。気分にもらがあるものの、簡単な指示を理解して行動したり、質問に単語や身振りで答えたりすることができる。文字の理解が難しく、「書く」活動では、主として点と点を結ぶ運筆の練習を行っている。

◆ 単元名 「くわしく伝えよう～宿泊学習の体験を思い出して伝えよう～」

◆ 単元目標

- ・文字の形に注意しながら、正確な平仮名で文章を書くことができる。
- ・物や人の名前前の平仮名を読んだり、なぞったりすることができる。  
(知・技)
- ・宿泊学習で体験したことについて、最適な助詞を使いながら3語文を作ることができる。
- ・宿泊学習で体験したことから、関連する単語を思い出して話すことができる。  
(思・判・表)

◆ 学習指導要領の内容

- ・ 中学部国語 2段階 ア(ア)(ウ) Bア ・ 中学部国語 1段階 ア(ア)

◆ 授業の実際(日々の授業協議等の記録から)

本時で設定した 伝え合う姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作った文章を写真とともに並べて発表する。</li> <li>・なぞった文字を読んで友達に伝える。</li> </ul>																
児童生徒の「聞く こと・話すこと」 の学びの様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>○写真を提示し、「どんな気持ちだった」と質問することで「楽しかった」と自分の気持ちを交えて場面の説明をした。</li> <li>○写真を指し示し、教師が読むことで、「ぴあの」「わなげ」と言葉を発することができた。</li> </ul> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <table border="1" style="border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px; height: 20px;"> </td> </tr> <tr> <td style="width: 20px; height: 20px;"> </td> </tr> <tr> <td style="width: 20px; height: 20px;"> </td> </tr> <tr> <td style="width: 20px; height: 20px;"> </td> </tr> </table> </div> </div>																

◆ 単元を通した児童生徒の「聞くこと・話すこと」に関する変容と効果的な手立て

変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活単元学習などの他教科や一日の振り返りをする場面で、文章を書く際に「楽しかった」や「頑張った」などの自分の気持ちに関する表現を入れ、発表もより具体的になった。</li> <li>・生活の中でさまざまな言葉を発する機会が増えてきている。</li> </ul>
効果的な手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真を使うことで場面のイメージや体験したことを思い出させることができた。</li> </ul>

(5) 中学部2年 B グループ

◆生徒の実態

- ・男子1名、女子1名。
- ・1名は文字を読んだり書いたりできるが、質問するとおうむ返しで終わってしまい、答えることが苦手である。
- ・1名は文字を読んだり書いたりできないが、単語や身振りなどで身近な物の名前や出来事を伝えることができる。

◆単元名 「書いて話そう③～ガレット2のレシピを作ろう～」

◆単元目標

- ・自分たちが作るガレットの具材や調理手順を書いたり、話したりしてレシピを作る。  
(知・技)(思・判・表)
- ・友達の発表をよく聞いて、指定された具材や調理器具の名前を友達に伝える。(学・人)

◆学習指導要領の内容

- ・小学部国語2段階ア(イ)、Aイ

◆授業の実際(日々の授業協議等の記録から)

<p>本時で設定した伝え合う姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選択した具材の名前を友達に伝えたり、聞き取った名前に合う絵カードを選択したりする。</li> <li>・振り返りで、絵カードを参考に自分が頑張ったことを選択する。</li> </ul>
<p>児童生徒の「聞くこと・話すこと」の学びの様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○材料名を選択するときに、写真や絵カードを見て、一人が質問した名前を、もう一人が写真や絵カードを選択し、その正誤判断をする場面を設定することで、相手を意識して話す・聞くことにつながった。</li> <li>○文字が認識できない生徒の、なぞり書き用の文字カードと絵カードがずれたとき、認識できる生徒に確認し、直してもらうことで、やりとりする場面ができた。</li> <li>○絵カードを準備することで、振り返りで頑張ったことを発表できた。</li> <li>▲話形を提示したが、授業で使う場面が少なく、定着になかなか結び付かない。</li> </ul>



◆単元を通した児童生徒の「聞くこと・話すこと」に関する変容と効果的な手立て

<p>変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味のある具材については、進んで名前を発表できた。</li> <li>・調理手順については、体験した後であれば、興味をもって発表した。また、動画を見せながら手順について学習すると、比較的スムーズに言葉が出てきた。</li> <li>・一緒に学習することへの抵抗感がなくなってきた。</li> </ul>
<p>効果的な手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の流れを統一し、見通しをもたせる。</li> <li>・生徒が食べたり見たりした経験があり、イメージをもちやすいものを取り上げる。</li> <li>・イメージを補い言葉で表現しやすくなるようなイラストや写真を提示する。</li> </ul>



(7) 中学部3年 B グループ

◆ 生徒の実態

- ・男子1名、女子2名。1名は教科や集団の大きさにより学習意欲に波があるが、基本的には3名とも学校生活を楽しみ、行事等を楽しみにして登校している。
- ・1名は、不明瞭な言葉もあるが内言語は豊富で、相手の話を理解している。3名とも日常会話や意思疎通ができ、友達や教師とのコミュニケーションが好きで関わりも多い。
- ・1名は、平仮名の読み、書きともに難しい。1名は文字を書くことは難しいが、平仮名を読み、理解できる。1名は、平仮名、片仮名の読みができ、文字バランスに課題はあるものの、自分の思いや考えを文字で表すことができる。

◆ 単元名 「伝えよう～行った場所、やったこと、感じたことを作文しよう～」

◆ 単元目標

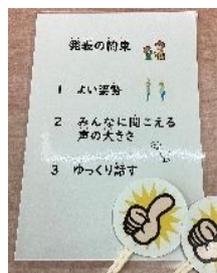
- ・自分が経験したこと、感じたことを順を追って作文する。(知・技)(思・判・表)
- ・発表の約束に気を付けながら友達の前で発表したり、良さを認め合ったりする。(学・人)

◆ 学習指導要領の内容

- ・ 中学部国語1段階イ (ア)

◆ 授業の実際(日々の授業協議等の記録から)

<p>本時で設定した伝え合う姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が伝えたいことを絞って作文を書き、友達に伝わるように発表し合う。</li> <li>・作文以外にも生徒が進んで話す場面を設定するために、めあてや学習内容を読み上げる場面を設定する。</li> </ul>
<p>生徒の「聞くこと・話すこと」の学びの様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今日のめあてや学習内容を生徒が読み上げることで、読む生徒は友達に伝わるように、聞く側は友達の話をよく聞こうとする姿が見られた。</li> <li>○タブレット端末を使用し、経験した活動を動画で振り返ることで、自分が伝えたいことをより具体的に作文できるようになった。</li> <li>○「発表の約束」「グットポイントカード」を用意したことで、一人一人が「話す」、「聞く」に注意が高まった。</li> </ul>



◆ 単元を通した生徒の「聞くこと・話すこと」に関する変容と効果的な手立て

<p>変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の学校生活の中で、自分から教師に話し掛けることが増えた。また、話す文章が長くなった。</li> <li>・発表順を固定したこと、繰り返したことで、発表場面で座ったまま発表していた生徒が、自分から前になるようになった。</li> <li>・「いつ」「どこで」「だれが」の順番があることが分かり、短冊を自分で並べ替えて作文し、スムーズに発表ができるようになった。</li> <li>・作文を繰り返すことで、活動に見通しをもち、学習に向かう気持ちがより高まり、自信をもって発表できるようになった。</li> </ul>
<p>効果的な手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の流れを統一し、見通しをもたせる。</li> <li>・経験した活動を想起しやすいように、動画や画像を使う。</li> <li>・時系列に沿って作文できるよう、「作文の約束」や短冊を使用し、活動の順番に並び替える活動を取り入れる。</li> <li>・動詞、助詞のシールを準備し、思ったこと感じたことを自由に表現できるようにする。</li> <li>・発表する側、聞く側ともに、友達の良さを認め合えるよう「発表の約束」「グットポイントカード」を用意する。</li> </ul>

## 第3回 全校授業研究会(中学部、11/27)の見どころ

### 中学部で育てたい「伝え合う姿」(6月時点)

幅広い実態の生徒たち。個人内の聞く・話す、読む、書く、の能力の差が大きい。

- 一生懸命伝えようとする姿、順序立てて話す力、見聞きしたことを伝えるための技術などの伝える力を伸ばしていく。
- 興味のない内容を聞くことがまだ難しい実態。教師が状況を整えることで話を聞き取り、理解する経験を積み重ねていく。

### 中学部3年国語1グループは…

Aさん、Bさん、Cさんの3人のグループです。失敗することに不安を感じるため、学習に取り組むことが難しかった生徒たちですが、好きなこと、楽しいこと、安心できることを通して、苦手なことにも頑張っており、取り組める姿が増えてきています。

国語科では、表現力を高めるため、主述の関係や修飾・被修飾の関係、形容詞などの様々な表現の仕方について学習を積み重ねてきました。学習の成果を掲示物などで積極的に発信し、掲示物を見た人からの肯定的な評価をもらうことで、伝わることの楽しさ、言葉を工夫することのよさを感じるとともに、苦手意識をもっていた文章作成にも自信をもってきたところです。

なお、本学習グループでは、生徒が興味をもって国語の学習に取り組めるように、生徒と共通理解してグループ内で使用している用語があります。

- 「とは文章」…説明をする文章「○○とは、▲▲です」のこと。短い方が相手に伝わりやすい、ということを生徒と共通理解しています。
  - 「ヒット言葉」…修飾する言葉。
  - 「かざり言葉」…「ヒット言葉」の中でも、考えや気持ちなどを詳しく説明する言葉。
- ※「ヒット言葉」「かざり言葉」については、光村図書「国語」の巻末にある「言葉の宝箱」を参考に、オリジナル資料を作成し、生徒に配付し、授業で活用しています。

### 今回提示する授業では…

楽しかった校外学習、修学旅行を文章で表す学習を積み重ね、本単元は「行ったことはないけれど行ってみたい都道府県のよいところを文章で表す」という学習です。これまで学習してきた修飾・被修飾の関係、いろいろな修飾語を工夫して、行きたい場所のよさを表現します。表現を試行錯誤して「書くこと」の意欲を高めるため、パンフレットとして作成して掲示するという設定にしました。また、友達の発表を「聞くこと」の意欲を高めるため、当該都道府県の「食べ物」や「動物」など友達の興味のあることも調べてまとめる設定もしています。

本時は作成したパンフレットを発表し合う小単元の最終日となります。本時の発表者はAさん。Aさんのパンフレットを読んで、3人で感想を伝え合いながら、表現の工夫について気付いたり、他の表現方法について考えたりします。BさんとCさんが興味をもって発表を聞き、Aさんの表現の工夫に気付くことができるでしょうか。また、友達の感想を受けてAさんが他の表現の仕方に気付くことができるでしょうか。生徒を結び付けるための教師のファシリテーターとしての役割にもご注目ください。

本時で取り扱う内容の学習指導要領の解説部分と、光村図書「語彙力を高める『言葉の宝箱』」を添付しますので、ぜひご覧ください。

# Create

## 第3回全校研を終えて、今後生かしていきたい授業づくりの視点

第3回全校授業研究会の授業提示、参観、協議、ありがとうございました。指導助言とグループの協議で出された改善案から、今後授業づくりに生かしていきたい内容について、以下にまとめます。

指導助言（湯沢市立山田小学校 教頭 仙道英悦先生）より

- ・国語では、身に付けた資質・能力（アイテム）を児童生徒に自覚させること、「こんなところで使えるよ」と価値を付けてあげることが必要。

### 「秋田の探究型授業」の基本プロセスを機能させた授業づくりの充実

単元や題材など内容や時間のまとまりを見直し、学習過程におけるそれぞれの段階をしっかりと機能させた上で、一連のプロセスとして関連付けて捉え、授業を展開する。



- ・学習のゴールと児童生徒の実態から学習課題を設定する。
- ・言語活動はねらいに近付くための手段。
- ・「学習の見通し」は自力でゴールを目指すための地図。子ども中心で授業が進行していくことが理想。
- ・「星本」はよく考えられた教科書。本単元は教科書で言葉の根拠を探し、生徒に「アイテム」を獲得させている。

### 【本時の授業】

- ・**板書について** 本時の見通しがもてる板書だった。子どもの安心につながる。小学6年生でも流れが見えると安心する。教師も楽になる。教師が話すことが少なくなる。子どもも進んで学ぶ。
- ・**「パンフレットを作る」単元について** 子どもの作品を使うのは意欲を引き出すのに有効。パンフレットづくりは小学校でもよく使う手段。注意点として、独りよがりにならないように相手意識をもたせること。本単元では「友達コラボ」がよい仕掛けだった。
- ・**教師のコーディネートについて** 「Cさん、教えてもらってもいい?」「Aさん、どう?」など、生徒をつなぐ言葉掛けがあった。生徒の考えを共有するためのICTの活用があった。
- ・**言語環境を整えることについて** 言語環境には掲示物や読み物などがあるが、教師が一番身近な言語環境であることを意識したい。本時は、授業の冒頭で取り上げた「こみ上げる」という言葉を授業の中で使う工夫、「誰に伝わりそうな言葉だと思う?」という相手意識を持たせる言葉掛けがあった。
- ・**教師の発言を減らすための改善案** 小学校では個で考えて集団で考えを深める。本学習グループは3人と少ないため難しいかもしれないが、本時の授業の後半は生徒の意見も多く出てきていたので、思い切って流れを生徒に預けてもよかったのではないかな。

### グループ協議より、本時の目標を達成するための言語活動とは?

- 伝わった実感（学んだことがどういう効果があるのか）が分かるように、パンフレットを全校に配る。
- 体験したからこそ身に付く「飾り言葉」。体験できなければ動画や本物のパンフレットを提示する。
- 話合いの輪の中にメンバーとして教師も参加し、徐々に生徒同士の話合いにもっていく。
- これまで通り、教師が適切な介入をしていく。その際、生徒の発言量を可能な限り整える。
- 生徒が同じ物を見たり経験したりしたことについて取り上げる。始めは個々にメモにまとめ、最後に伝え合うとよい。

※以上、第3回全校授業研究会で得られた授業づくりの視点を、国語の授業づくりに生かしていきたいでしょう。

# Ⅲ 高等部

### Ⅲ 高等部の実践

#### 1 高等部生徒の実態と国語科の授業についての課題

- ・男子26名、女子11名、計37名である。身辺処理に課題がある生徒、不登校傾向にある生徒、自分の職業適性を考えながら就労に向かって取り組む生徒など、実態は様々である。
- ・興味・関心のある話に対して、自分の思いや考えを伝えようとしたり、楽しい雰囲気になると自分の意見を出したりすることができる。
- ・自分の気持ちが優先になってしまい、話の途中であっても話してしまったり、話が一方的になってしまったりすることがある。
- ・話を聞く態度や視線、自分の意見や考えをまとめて伝えることに課題が見られる。

#### 2 高等部で育てたい「伝え合う姿」

高等部生徒の実態から、目的に沿って話すことや相手の話を受け取ることに課題があったため、育てたい「伝え合う姿」を以下のように設定した。

- 話す: 思いや考えをもつ、まとめる、伝える。
- 聞く: 話を受け止め、伝わっていることを返す。自分の思いや考えを広げる。(考えの一部を取り入れる。似ているところ、違うところを見つける。)

#### 3 高等部で行う国語科の授業スタイル

- ・学年ごとに実態・課題別の学習グループを設定し、同じ学習課題に向けた一斉授業を行う。

#### 4 高等部での授業の見取り方

- ・授業後に生徒が、振り返りシートを記入する。
- ・振り返りが難しい生徒については、教師がエピソードを記録する。

【形式】 (振り返りシート)

10/3 (木)	9/27 (金)	9/25 (水)	日付
だにのこ気分付はいた らもポストは他の つあるタの	付あよるかん こはよるかん はあよるかん	よを見付けた のポストに 学校の中心	学習のあて
今日の 感想 疑問 分かった 気付き	今日の 感想 疑問 分かった 気付き	今日の 感想 疑問 分かった 気付き	今日の〇〇
わとポストにはちか かりました。たか ふりました。	情報がいっぱい ポスターにいろいろ 情報がありました。	四角の形は全部 ポスターの形は全部 四角でした。	振り返り

12/ (6)	11/ (29)	11/ (28)	10/ (24)	日付
しんじつ のしんじつ のしんじつ	よく きこく よく	よく きこく よく	また よく きこく	学習内容
つまらな い	つまらな い	つまらな い	つまらな い	今日のめざし
いろいろ な こと が あ り ま し た	いろいろ な こと が あ り ま し た	いろいろ な こと が あ り ま し た	いろいろ な こと が あ り ま し た	振り返り

#### 5 授業実践

※ P 3 1 ページに記載

## 6 授業実践を通じた高等部の「聞くこと・話すこと」の変容、授業づくりの成果と課題

### (1) 生徒の「聞くこと・話すこと」の変容

- 話を聞く態度や視線が改善され、話を聞こうとする意識が高まったり、注意深く聞いたりするようになってきた。
- 友達の話聞いてメモを取ったり、意見に対して反応したりするようになった。
- 身振りを交えて伝えようとしたり、興味・関心のあるテーマについて書く、話す活動が定着したりした。

### (2) 授業づくりの成果と課題

- 今年度の授業実践、生徒の変容から、生徒の「聞くこと・話すこと」の向上につながる効果的な手立てを以下のように整理した。



- ▲生徒が考えや気持ちを伝えるための言葉を増やしていくこと、相手を意識した話し方や助詞の正しい使い方を身に付けることなど、生徒の表現力の向上につながるための手立てについて、工夫が必要であった。

## 7 次年度に向けて

### (1) 授業スタイル

- ・学年ごとに実態・課題別の学習グループを設定し、同じ学習課題に向けた一斉授業を行う。

### (2) 見取り方

- ・授業後に生徒が、振り返りシートを記入する。
- ・振り返りが難しい生徒については、教師がエピソードを記録する。

### (3) 高等部の「聞くこと・話すこと」の授業づくりで押さえないポイント

- ・国語科の年間指導計画の立案、実施、評価、改善  
→生徒の実生活(興味・関心)や学校生活(行事や学習)と関連付けた単元を組んでいく。
- ・生徒の実態、実態差に応じた手立て  
→発問・ワークシート・I C Tについて、生徒の実態に応じたものを用意し活用する。
- ・板書や振り返りシートの工夫  
→思考の流れが分かり、生徒の振り返りにつながる板書計画を立て実践する。  
→実態に応じた振り返りシートを準備し、活用する。

## 5 授業実践

### (1) 高等部 1 年 A グループ

#### ◆生徒の実態

- ・男子 6 名。学習のテーマやめあてに沿って考えたり、振り返ったりすることができ、友達や教師の意見を受け入れて学習に取り組んでいる。
- ・5 名は興味・関心、経験のあることに関して、積極的に友達に話し掛けたり、具体的な場面を思い出し、その様子を伝えようとしたりすることができる。
- ・1 名は場面緘黙症により、友達や教師と直接的な会話をするのが難しいが、自分の興味があることに関する話題になると会話の様子を気にする様子が見られる。

#### ◆単元名 「修学旅行の思い出を聞きに行こう」

#### ◆単元目標

- ・「いつ、どこで、だれが、なにを、どうしたか」に着目することを理解し、話の内容を捉えて聞くことができる。 (知・技)
- ・重要な語句が何か判断しながら聞き、分からない点や確かめたい点を質問することができる。 (思・判・表)
- ・先輩や友達の話聞く活動を通して、相手の話に興味をもち、最後まで聞こうとする。 (学・人)

#### ◆学習指導要領の内容

- ・中学部国語 2 段階イ (イ)、高等部国語 1 段階 A ア

#### ◆授業の実際(日々の授業協議等の記録から)

本時で設定した伝え合う姿	聞き取った情報をメモしたり、分からない点や確かめたい点を質問したりしながら、インタビュー内容を正しく聞き取る。
児童生徒の「聞くこと・話すこと」の学びの様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>○メモを取りながら話を聞くことができた。また、生徒自身でメモの取り方を工夫しながら取り組む姿が見られた。</li> <li>○自分の書いたメモを参考に、聞き逃したことを質問した。</li> <li>▲話を正しく聞き取ることに集中するあまり、相手が聞き取りやすい話し方を意識することが難しかった。</li> </ul> 

#### ◆単元を通じた児童生徒の「聞くこと・話すこと」に関する変容と効果的な手立て

変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の話を聞く態度や最後まで聞き取ろうとする意識が高まった。</li> <li>・「これから大事な話をします」などの言葉を意識してメモを取ったり、ポイントとなる言葉を判断して聞き取ったりする姿が増えた。</li> </ul>
効果的な手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返しのある学習スタイルにすることで、見通しをもたせる。</li> <li>・聞き取ったことを視覚的に確認することができるようにする。</li> <li>・互いの考えを共有するためにロイロノートのアンケート機能を活用する。</li> <li>・生徒の意見を参考にした話の聞き方のルールを設定した。</li> </ul>

(2) 高等部 1 年 B グループ

◆ 児童生徒の実態

- ・ 男子 2 名。学校での様々な学習に関心をもっており、意欲的に取り組んでいる。
- ・ 1 名は日常会話が可能である。考えて答える時間を用意すると、時間がかかるが質問されたことについて答えようとする。経験が乏しいことについて聞いて理解することが苦手である。
- ・ 1 名は言語不明瞭だが、単語、身振りなどで身近な出来事や自分の気持ちを伝える。気分がむらがあるものの、簡単な指示を理解し行動したり質問に身振りで答えたりできる。

◆ 単元名 「ものの名前をせつめいしよう～スリーヒントクイズ～」

◆ 単元目標

- ・ 色、形、大きさなどに関する言葉を理解する。 (知・技)
- ・ 身近な物の色、形、大きさなどの特徴について知っている言葉を当てはめて表現する。 (思・判・表)
- ・ クイズの出題者の話をよく聞いて内容を把握しようとしたり、クイズを作成しようとしたりする。 (学・人)

◆ 学習指導要領の内容

- ・ 小学部国語 3 段階ア (ア)、小学部国語 2 段階 A ア

◆ 授業の実際(日々の授業協議等の記録から)

<p>本時で設定した 伝え合う姿</p>	<p>クイズの答え(本時は「電車」)について、特徴を考え話す。友達 の考えを聞いて「電車」を説明する言葉を増やす。</p>
<p>児童生徒の「聞く こと・話すこと」 の学びの様子</p>	<p>○「どんな風に走りますか」と質問することで「ガタンゴトン」と身 振りを交えて話した。</p> <p>○イラストを提示することで「線路」「駅」 など、「電車」に関連する物も加えて説明 する言葉を考えた。</p> <p>▲普段電車に乗ることがないことから、 説明する言葉を出すのに難儀し、振り返 りでは「クイズを考えるのが難しかった」と記入した。</p>



◆ 単元を通した児童生徒の「聞くこと・話すこと」に関する変容と効果的な手立て

<p>変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業の導入に行う教師からの出題を、言葉をイメージしながら注 意深く聞き、問題に答えるようになった。</li> <li>・ 物の特徴を、自分の知っている言葉に当てはめて表現することに 根気よく取り組めるようになった。</li> </ul>
<p>効果的な手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習の流れを統一し、見通しをもたせる。</li> <li>・ 作成するクイズの答えは、生徒が食べたり触れたりした経験があ ってイメージを持ちやすいものを取り上げる。</li> <li>・ イメージを補い言葉で表現しやすくなるようなイラストや写真 を提示する。</li> </ul>

(3) 高等部 2 年 A グループ

◆ 児童生徒の実態

- ・男子 3 名、女子 3 名。日常会話は可能であり、身近な漢字を使って文を書いたり読んだりする。
- ・自分が思いついたことをすぐ話してしまい、何について話しているか分からなくなる生徒がいる。
- ・考えて話すことに時間を要するため、なかなか自分から話をしない生徒がいる。
- ・興味関心がある話、一対一の話は聞いて理解することが多いが、「自分が伝えたいことを整理して話す」「人の話を聞くこと」に課題がある。
- ・答えが明瞭な質問には、掛かる時間はまちまちであるが考えて答える。

◆ 単元名 「テーマについて伝え合う」

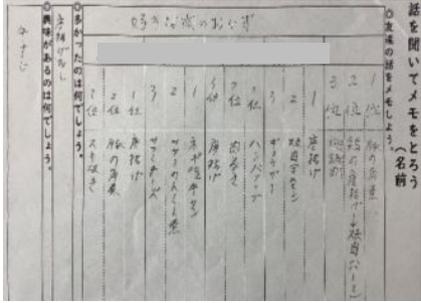
◆ 単元目標

- ・テーマに関する自分の考えを書いて発表したり、友達の話聞いてメモを取ったりする。 (知・技)
- ・分かったこと、意見や感想を書いたり話したりする。 (思・判・表)
- ・友達の意見を尊重して話を聞く。 (学・人)

◆ 学習指導要領の内容

- ・ 中学部国語 2 段階 A アイ、 中学部国語 1 段階ウ

◆ 授業の実際(日々の授業協議等の記録から)

<p>本時で設定した 伝え合う姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマについて考えたことを話す。</li> <li>・話を聞いてメモを取る。</li> <li>・分かったこと、意見や感想を話す。</li> </ul>
<p>児童生徒の「聞く こと・話すこと」 の学びの様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークシートに考えを記入する時間を設けたことで、自分の考えをまとめ、伝えた。</li> <li>○友達の話聞き逃したときはもう一度聞き直したり、友達が聞く準備ができたのを確認してから話したりすることがあった。</li> <li>○友達の考えを聞いて「なるほど」と答えたり、相づちをしたりした。</li> </ul> 

◆ 単元を通した児童生徒の「聞くこと・話すこと」に関する変容と効果的な手立て

<p>変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しをもち安心して授業に取り組んだ。</li> <li>・友達の話聞いてメモを取り、自分の考えや意見、感想を話した。</li> <li>・話題や人に合わせて話す、伝え方を工夫する場面が見られた。</li> <li>・テーマに考えるきっかけになったり、考えが深まったりした。</li> </ul>
<p>効果的な手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味関心がある「テーマ」について、「考えて書く→友達の話聞いてメモを取る→共通点、興味をもったことを書いたり伝えたりする」学習を繰り返した。</li> <li>・その時の生徒の心理状態に合わせて取り上げる学習内容を変更した。</li> <li>・学習の取り組み方が分かるように、T2が生徒と一緒に学習に参加した。</li> </ul>

#### (4) 高等部 2 年 B グループ

##### ◆生徒の実態

- ・男子 4 名。4 名とも日常的な会話が可能であるが、自分の好きなことを一方的に伝えることが多く、内容がまとまっていないため、相手に伝わらないことが多い。また、友達や教師の話に耳を傾けたり、注視したりすることが難しい生徒もいる。

##### ◆単元名 「下級生に絵本を紹介しよう」

##### ◆単元目標

- ・自分が選んだ絵本を読み、内容の大体をまとめる。 (知・技)
- ・自分がまとめた絵本についての紹介文を相手に分かりやすく伝える。 (思・判・表)
- ・お互いに紹介した絵本について、お互いの思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。 (学・人)

##### ◆学習指導要領の内容

- ・ 中学部国語 1 段階ア、イ

##### ◆授業の実際(日々の授業協議等の記録から)

本時で設定した伝え合う姿	自分のまとめた絵本の紹介文を伝えたり、友達の紹介文を聞いたる活動を通して「分かりやすい」文章について考え、お互いに評価しあう姿。
児童生徒の「聞くこと・話すこと」の学びの様子	<p>○「下級生に向けて」という文言から小学部児童を対象に決め、本を紹介する対象者に応じた簡潔な文章表現で紹介文を書いた。</p> <p>▲紹介文を作るための中間報告としての位置付けであったら良かった。</p> <p>▲本の紹介文はどうあればいいかの捉えが生徒によって異なった。</p> <p>▲紹介する本をお互いが読んで内容を理解していなかったため、本を紹介するための言葉をみんなで出し合うことができなかった。</p> 

##### ◆単元を通した児童生徒の「聞くこと・話すこと」に関する変容と効果的な手立て

変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本の紹介文の作成は、題材を繰り返したことで、「相手にとっての分かりやすい文章とは」を考えながらまとめることができた。また、伝え合う場面では、ポイントを意識しながら伝えたり、友達の発表のよさを評価したりすることができていた。</li> </ul>
効果的な手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に伝わる文章のポイント（「登場人物（だれ）」「いつ」「どこで」「〇〇をした」等）をまとめられるようなワークシートの準備をする。</li> <li>・「話す」内容の整理をする。</li> </ul>

## (5) 高等部 2 年 C グループ

### ◆生徒の実態

- ・男子 3 名、女子 1 名。様々な学習において、とても意欲的に取り組む。
- ・2 名は日常的な会話のやりとりが可能であるが、話が一方的になることが多い。
- ・2 名は、簡単な指示や言葉を聞いて行動に移すことができるが、会話でのやり取りが難しい場面が多いため、個別に内容を絞って問い掛ける場面が必要である。
- ・話し手に注目し、最後まで話しを聞くことを苦手としている。

### ◆単元名 「見付けて、伝えよう②」

### ◆単元目標

- ・生活の中で目にするポスターには、様々な情報が記されていることを知る。(知・技)
- ・複数のポスターを見たり、比較したりして、共通点や相違点に気付く。(思・判・表)
- ・ポスターに注目して特徴を見付けて友達に伝えたり、自分が興味・関心のあるポスターを選んだりする。(学・人)

### ◆学習指導要領の内容

- ・中学部国語 1 段階オ、中学部国語 1 段階ウ

### ◆授業の実際(日々の授業協議等の記録から)

<p>本時で設定した 伝え合う姿</p>	<p>前時で、見付けたポスターの特徴(行事の名前、日時、場所など)は、他のポスターにもあるかどうかを見て比較し、共通点や相違点を見付けて、言葉で伝える。</p>
<p>児童生徒の「聞くこと・話すこと」の学びの様子</p>	<p>○自分たちが参加する行事のポスター(うどん EXPO)を活用したことで、「早く参加したい!」「○○うどんが食べたいです」など、楽しみにしている気持ちを伝えた。</p> <p>○前時で見付けたポスターの特徴を基に、他のポスターから共通点を見付けて、伝えようとしていた。</p> <p>▲ポスターから見付けたことを伝える場面で、ルールに沿って発言することが難しかったり、生徒によって発言の量に偏りがあったりした。</p>



### ◆単元を通した児童生徒の「聞くこと・話すこと」に関する変容と効果的な手立て

<p>変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の導入時にウォーミングアップ(スリーヒントクイズ)をする時間を毎時間、設定することで、教師の話を静かに聞き取るようになった。</li> <li>・「あ～、そうだ!」「なるほど」「同じだ」などと、友達の発言を聞いて、反応する場面が増えてきた。</li> </ul>
<p>効果的な手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の導入時に、ウォーミングアップの時間を設定し、聞く、書く、話すことを繰り返し行う。</li> <li>・生徒にとって身近でイメージしやすい教材や生徒が実際に経験した行事、学習と関連付けた題材を設定する。</li> </ul>

(6) 高等部 2 年 D グループ

◆ 生徒の実態

- ・ 男子 2 名、女子 2 名。
- ・ 話すことについては、男子 1 名は発声が不明瞭で、聞き取りにくいですが、友達や教師との会話を楽しんだり、自分の意思を積極的に伝えようとしたりする。他の 3 人は発する有意味語については概ね聞き取れるが、会話が一方的になったり、改まった場面で話す声が小さく聞き取りが難しかったりする。
- ・ 話の聞き方について、短い文やイラストを交えて伝えることで、要点はある程度把握し、他者からの質問等に単語で返答できるようになってきた。

◆ 単元名 「伝えよう、聞いてみよう」

◆ 単元目標

- ・ 物や動物などの特徴を考え、「○○は△△です。」という表現で言い表す。(思・判・表)
- ・ 友達や教師の話をよく聞き、要点を理解して質問に答える。(学・人)

◆ 学習指導要領の内容

- ・ 高等部国語科 1 段階 A ア、イ、ウ
- ・ 中学部国語科 1 段階 A イ、オ
- ・ 小学部国語科 2 段階 A ア、ウ  
3 段階 A イ、ウ、カ

◆ 授業の実際(日々の授業協議等の記録から)

<p>本時で設定した伝え合う姿</p>	<p>・ 果物の色や形、味などをもとにクイズを考え、友達に出題する。友達の出題をよく聞いて答える。</p>
<p>児童生徒の「聞くこと・話すこと」の学びの様子</p>	<p>○ ロイロノートを活用することで、伝える内容の手掛かりとなる色のカードや味を表現するイラストを操作して、友達に伝える短文を作成できた。</p> <p>○ クイズ形式の活動を設定することで、友達の話をしっかり聞き取ろうとして、友達に身体や視線を向けることが増えた。</p> <p>▲ 生徒にとっては、味といった抽象的な概念を表現する難しさがあった。</p> 

◆ 単元を通じた児童生徒の「聞くこと・話すこと」に関する変容と効果的な手立て

<p>変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでは、ものの名前など伝えようとする事柄を「りんご」などと単語で言い切りにすることが多かったが、話型を固定することで、「りんごは赤いです。」と助詞を交えた文で話すことができるようになってきた。</li> <li>・ 友達の話を聞くときに、「話の聞き方のポイント」を、イラストを交えて説明することで、話をしている友達に目線や身体を向けて聞く習慣が身に付いてきた。</li> </ul>
<p>効果的な手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ロイロノートでワークシートなどの教材を提示する。</li> <li>・ 色や形を示すカード、味を感じている顔の表情のイラストなどを必要なタイミングで提示する。</li> </ul>

(7) 高等部 3 年 A グループ

◆ 生徒の実態

- ・男子 2 名、女子 4 名。
- ・個人差はあるが、自分の意見や考えをもち、言葉で表現することができる。
- ・話すことよりも書くことに対して前向きで、話す活動（発表）に向けて、出来事や感想を書いてまとめることに慣れている。
- ・集団の前での発表や人に注目される場面で、声が小さくなったり、姿勢や動作、態度に緊張が見られたりすることがあるが、本学習グループの学習活動の中では改善が見られてきた。

◆ 単元名 「おすすめを伝えよう」

◆ 単元目標

- ・ 枠に適切な文や言葉を入れて原稿を作る。 (知・技)
- ・ 自分の真意が伝わる言葉を選んだり、話し方を工夫したりして自分のおすすめを伝える。 (思・判・表)
- ・ 友達のおすすめに対して感想をもつことで、興味や視野を広げる。 (学・人)

◆ 学習指導要領の内容

- ・ 高等部国語科 2 段階アイウエ

◆ 授業の実際(日々の授業協議等の記録から)

<p>本時で設定した 伝え合う姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おすすめの本のよさを適切に伝えられるように、書いて整理する。</li> <li>・友達の発表を聞いて、興味をもった言葉や部分を用いて、感想・質問を付箋に書いたり、話したりする。</li> </ul>
<p>児童生徒の「聞くこと・話すこと」の学びの様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○整理メモを用い、項目に従ってまとめる中で、教師の助言を参考に足したり、言葉の使い方、語順などを改善したりしながら自分の伝えたいことを整理した。</li> <li>○話し言葉で理解できない言葉を板書で補うことで、聞き手の生徒が発表内容を理解することができた。</li> <li>▲付箋紙に書いた感想・質問を他の生徒と見合う時間を設けていなかった。他の生徒と見合うことで、視野を広げたり、自分の発表につなげたりすることができたのではないか。</li> <li>▲友達の発表内容について、聞くだけでは理解できないことも多くあり、自分の聞き覚えのある言葉に注目が向けられ、話し手の伝えたいことから離れた感想になることがあった。</li> </ul> 

◆ 単元を通じた児童生徒の「聞くこと・話すこと」に関する変容と効果的な手立て

<p>変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整理メモに書くことで、伝えたいことを順序立てて話す準備ができた。</li> <li>・話す・聞くのマナーを確認することで、話し方を意識的に改善したり、友達の発表のよい点に気付いたりするようになった。</li> </ul>
<p>効果的な手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整理メモを用い、伝えたいことや強調したいことなど、整理する時間を設ける。</li> <li>・生徒の発表を聞いた後、要旨を板書して可視化したり、難しい言葉を解説したりする。</li> <li>・話す・聞くのマナーを例に挙げながら板書し、確認する。</li> </ul>

(8) 高等部 3 年 B グループ

◆ 生徒の実態

- ・男子 4 名。4 名とも日常的な会話が可能であるが、自分の興味関心のある内容を一方的に話したり、友達や教師の話に耳を傾けたりすることが難しい生徒など、実態差が大きい。

◆ 単元名 「相手に伝えよう～相手や目的を意識した書き方・話し方」

◆ 単元目標

- ・文章全体の構成や表し方などに着目して、文や文章を整える。 (知・技)
- ・目的や意図に応じて、事実と感想、意見を区別して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。 (思・判・表)
- ・お互いの思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。 (学・人)

◆ 学習指導要領の内容

- ・高等部国語科 1 段階 A イ、B エオ

◆ 授業の実際(日々の授業協議等の記録から)

<p>本時で設定した伝え合う姿</p>	<p>身近にあるポスターやチラシを見て、どんな情報がどのように記載されているかについて意見を出し合う。気付いたことを生かして、小学部で読み聞かせをすることを知らせるポスターを作成する。</p>
<p>児童生徒の「聞くこと・話すこと」の学びの様子</p>	<p>○身近にある教材(ポスター)を利用し、日時や内容の表記について文字の大きさや書かれている場所などについて、実物を見ながら意見を交わす様子が見られた。</p> <p>○「漢字にふりがなを付けたい」「絵本の写真を載せたい」など伝えるための工夫について、対象児童を意識した意見が多く出された。</p> <p>▲自分の意見を整理するために、ワークシートを用意したが、設問が生徒に分かりづらいものだったので、引き出したい意見が得られなかった。</p> <div data-bbox="842 1137 1422 1547" style="text-align: center;"> </div>

◆ 単元を通じた児童生徒の「聞くこと・話すこと」に関する変容と効果的な手立て

<p>変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談する際に、実態差に合わせた発言の仕方について個々に確認する時間を設けたことで、それぞれの意見を話すだけでなく、話を聞こうとする様子が見られた。</li> <li>・タブレット端末などを活用することで、課題を可視化したり、活動をスムーズに進めたりすることができた。</li> </ul>
<p>効果的な手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒個々の実態に応じた、伝え方や表現の仕方の練習を繰り返し行う。</li> <li>・イメージを補い学習内容への理解を深められるようなイラストや写真を提示する。</li> </ul>

(9) 高等部 3 年 C グループ

◆生徒の実態

- ・女子 1 名。様々な人との会話を好み、不明瞭ではあるが、やりたいことや欲しいものなど、自分の思いを言葉で伝えようとする。
- ・日常的な言葉掛けは概ね理解しており、それに応じて行動することができる。
- ・音楽を聴くことや歌うこと、紙に字や絵を描くことが好きである。
- ・長い時間同じ課題をすると飽きてしまう。
- ・楽しみにしていた修学旅行には、体調が悪く参加することができなかったが、友達の動画や写真を好んで見ている。

◆単元名 「誰が?」「何をした?」～修学旅行編～

◆単元目標

- ・訪問先や乗り物などに関する言葉を理解する。 (知・技)
- ・写真を見て、質問された内容の写真や言葉のカードを選ぼうとする。 (思・判・表)
- ・数枚の友達の写真を見て二語文を完成させ、修学旅行の様子を感じ取ろうとする。 (学・人)

◆学習指導要領の内容

- ・小学部国語 2 段階 A ウ

◆授業の実際(日々の授業協議等の記録から)

本時で設定した伝え合う姿	修学旅行の写真を見て、訪問先の名称を伝えたり、何をするとするかを説明したりする。
児童生徒の「聞くこと・話すこと」の学びの様子	<p>○写真と訪問先や乗り物の名前が書いてあるカードを貼るシートを準備し、「誰ですか?」や「何をしていますか?」と問い掛けた。言葉と写真をマッチングさせて、親しい友人が写っている写真を指さして、写真に写っている友達の名前を言いながら、「新幹線で東京に行った。」「こまちに乗った。」などと文章を完成させた。</p> <p>▲友達の名を呼び捨てにするなど、適切ではない言葉を発する場面があった。</p>



◆単元を通した児童生徒の「聞くこと・話すこと」に関する変容と効果的な手立て

変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味深いディズニーランドの写真やクラスメートの写真だったので、質問に最後まで答えて、文を完成した。</li> </ul>
効果的な手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が興味・関心のある物や身近にいる人が写っている写真を介して言葉を引き出す。</li> <li>・呼び捨てにして答えるときは、「○○さんと～」と言い直しをして質問をし直すなど、生徒の年齢に応じた話し方をして聞かせる。</li> </ul>

# Create

## 第1回 全校授業研究会(高等部、7/17)の見どころ

### 高等部で育てたい「伝え合う姿」(6月時点)

目的に沿って話すこと、相手の話を受け止めることに課題がある。話を聞くことがプラスになった経験を重ね、双方向のやりとりにつなげたい。

○話す: 思いや考えをもつ、まとめる、伝える。

○聞く: 話を受け止め、伝わっていることを返す。自分の思いや考えを広げる(考えの一部を取り入れる。似ているところ、違うところを見付ける。)

### 高等部1年国語Aグループは…

- ・男子6名の学習グループです。(内、現在継続して学習に参加できている生徒は4名です。)
- ・テーマやめあてを提示することで、それに沿って物事を考えようとしています。
- ・自分の興味、関心、経験のあることについて話をするのが好きです。
- ・友達に積極的に意見や助言を伝えたり、それを受け入れたりする様子が見られます。
- ・話し合う態度については成長途中(姿勢、うなずきなどの反応、言葉遣い)です。

**国語の中で「話を聞くポイント」を生徒と話し合っただけでまとめたものを常に提示し、確認しながら学習を進めることで、国語の時間だけでなく日常的に「相手の目を見て」「一生懸命」「うなずきながら」「笑顔で」「終わりまで話を聞く」を頑張れるようになってきています。**

- ・要点を捉えて話を聞くことが難しいです。
- ・国語(に限らず机上の学習)、字を書くことに抵抗感が強いです。楽しい雰囲気を作ることで学習に対し少し前向きな様子が見られます。

### 今回提示する授業では…

興味、関心、経験のあること…ということで、自分たちも中3の時にいき、日頃親しく接してくれている高3の先輩たちが今年行く「東京への修学旅行」を取り上げて、生徒たちが少し苦手としている「聞くこと・話すこと」について学習しています。

本時は本単元のまとめです。それぞれが先輩たちにインタビューして分かったことを発表し合います。

友達の発表を聞き、聞き逃したことを聞き返したりメモに書き留めたりして話の内容を捉えることができるでしょうか。そしてどんなことに気を付けて話を聞くことが大事であるかを生徒自身が言葉で表現できるでしょうか。という点に注目してご参観ください。



# Create

## 第1回全校研を終えて、今後生かしていきたい授業づくりの視点

第1回全校授業研究会では、高等部1年生ということで、土台作りの1学期の中での授業提示ありがとうございました。指導助言とグループの協議で出された改善案から、今後授業づくりに生かしていきたい内容について、以下にまとめます。

### 指導助言（本校教諭（兼）教育専門監 伊藤 優子）より

授業を見ていただいて、以下の指導助言をいただきました。

- 興味関心をうまく展開できるような工夫をして、主体的に学べるようにする。
- 「聞くこと」に焦点を当てた授業の中でも、生徒が正しく聞き取れたのは話し方もよかったからだ、という「双方向」の後押しをする。
- 生徒同士のやりとりにおいて、「伝えた」「伝わった」という楽しさが感じられる場面を作る。座配を工夫する。
- 本時のめあてに迫る内容を生徒が実感できるためには、教師からの提案ではなく、生徒同士で工夫し気付く仕掛けをする。
- 授業全体の組み立てや流れを整理し、学習活動を精選する。

併せて、「自立活動の視点に基づいた支援」について丁寧にお話いただきました。

障害のある子は、国語の資質・能力の前につまずきがある。その配慮がないと“できないこと”をする授業になってしまう。自立活動の視点を意識した授業づくり、手立てが重要。

「メモを取る」ためには①耳からの情報を一時的に記憶する。②情報を精査する。③メモに書き留める。④メモに乱雑に、断片的に書かれているものについて、記憶をたどって連想して内容を思い出す。という手順がある。そのための、生徒の書く量、聞く量の実態を押さえ、言葉からのイメージはどこまでできるのかを把握し、手立てを講じる。

「聞き取れないときは質問する」際、聞き取れない理由と対処の仕方を生徒が理解すると自己理解につながる。

指導主事として湯沢・雄勝地域の小・中学校を多数訪問していた伊藤先生より「通常の小中学校に在籍していた生徒は、教科書を教材にすることに苦手意識がある場合がある。言語能力以上の理解できない言葉のシャワーを浴びて、考えることや表現することを諦めている子どもがいる」とのお話をいただき、国語の授業に限らないことですが、改めて児童生徒のつまずきの原因を把握し、実態に応じた手立てを講じることの大切さを教えていただきました。

### グループ協議で出された改善案より

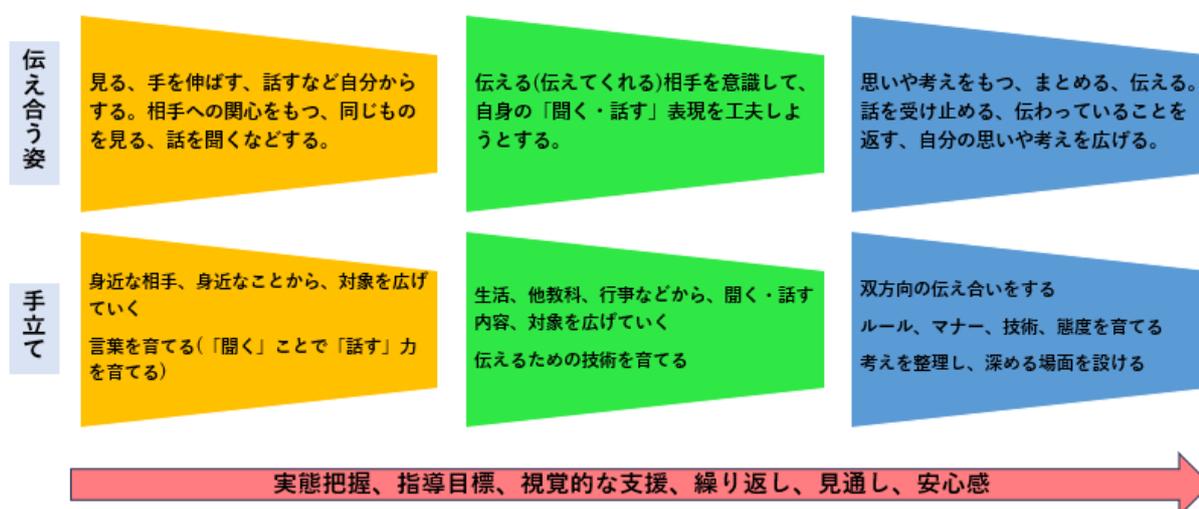
- 内容の精選。（本時であれば、「聞くこと」に焦点化した授業内容にするなど。）
- 生徒が「話したい」と思える工夫。（本時であれば、クイズの出題を生徒にさせるなど。）
- 生徒の意見を活用した授業のまとめ。（本時であれば生徒が書いた短冊の効果的な活用など。）
- 伝える上での、思いを整理する時間を取る。
- 言語理解の実態に合った指導方法を取り入れる。

※以上、第1回全校授業研究会で得られた授業づくりの視点を、2学期の国語の授業づくりに生かしていきましょう。

## 第 3 部 研究のまとめ

## 1 育てたい「伝え合う姿」、「聞くこと・話すこと」の授業づくりのポイントの整理

年度初めに、各学部の実態を踏まえて、各学部で育てたい「伝え合う姿」を設定した。この姿を基にした言語活動を行う場面を設定し、国語科「聞くこと・話すこと」の力を育てるための授業づくりに取り組んだ。全校授業研究会や日々の授業協議等の取組を通して見られた今年度の児童生徒の変容とそれにつながった手立てを以下のように整理した。



小学部段階では聞く・話す内容や対象はごく身近なことから始まり、徐々に広がっていくことが効果的だった。また、話す力を育てる上では聞くことが大事で、絵本の読み聞かせなどで言葉を育てていくことが効果があった。

中学部段階では生活経験の広がり・深まりを背景に聞く・話す内容や対象をさらに広げていくことが効果があった。また、その広がり・深まりに対応できる伝える技術を育てていくことが必要であった。

高等部段階では聞く・話すことを双方向で行うような内容が効果があり、そのためのルールやマナーなどを育てることが必要だった。また、聞いたこと、話したいことを書くなどして整理し、考えを深める場面設定が効果的だった。

また、全ての学部段階において、実態を把握し、適切な指導目標を立てること、聞くこと・話すことを補う視覚的な支援を講じること、繰り返し取り組む学習内容、学習に見通しをもたせる手立て、安心して聞く・話すことのできる環境設定が効果があった。

今年度の実践から分かったことをまとめたものがP44の資料である。「聞くこと・話すこと」の授業づくりのポイントをまとめた。また、「聞くこと・話すこと」に限らず授業づくりの基本として押さえてほしいことも多く挙げられたので、そのことも整理した。これらのポイントは、「秋田の探究型授業」の基本プロセスとつながる部分が多く、その図も載せた。この資料を次年度は研究資料集や単元構想シートに添付し、意識して授業づくりに取り組んでいく。

## 2 成果と課題

### (1) 成果

#### ○教科指導に対応した学習指導案

→学習指導要領の内容に沿った授業づくりができた。シナリオによるつまづきを予想した手立ての考案ができた。

#### ○単元構想シート

→子どもの実態を踏まえた単元構想ができた。

○授業づくりプロジェクトとの連携、全校一丸となった国語科の授業実践(一斉授業へのチャレンジ)、通常小・中学校の先生方による指導助言  
→教員の授業力が向上した。

以上の授業づくりにおける成果を受けて、各学部の実践にもまとめられているように、児童生徒の「聞くこと・話すこと」のよい変容が見られた。

## (2) 課題

冬に実施した研究アンケートから、教員が感じている課題は以下の3点にまとめられる。

### ①実態差への対応

似通った実態の児童生徒の学習グループを構成し、国語科の授業を行う中でも、実態に幅があり、グループで学習する上で難しさを感じた教員が多くいた。

### ②国語科の学びの般化

他教科等と関連をもたせた学習計画を立てることで、国語科の学びを生活の中で生かせるようにしたいと感じた教員が多くいた。

### ③児童生徒の表現力の向上

小学部では言葉の少ない児童の気持ちの表出方法、中学部や高等部では感じたことや考えたことを伝える言葉を増やしたいと感じた教員が多くいた。

## 3 次年度に向けて

今年度の成果と課題を受けて、次年度は以下の内容を実施する。

- ・全学習グループでの「年間指導計画を語る会」の実施による、実態に対応し生活に生きる国語科年間指導計画の立案と評価(課題①②③に対応)
- ・授業づくりのポイント(P44参照)を生かした授業実践・評価・改善(課題①②に対応)
- ・国語科の授業を見合える機会の設定(課題①②に対応)
- ・学習グループの実態に応じた授業記録を活用した評価・改善(課題①③に対応)

次年度は以上の取組を通して、今年度まとめた「聞くこと・話すこと」の授業づくりのポイントをさらに改善するとともに、単元と言語活動の具体や実践事例を整理し、「聞くこと・話すこと」の力を育てる有効な手立てをまとめる。

## 参考

- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部)  
平成30年3月 文部科学省
- ・特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)  
平成30年3月 文部科学省
- ・特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(上)(高等部)  
平成31年2月 文部科学省
- ・令和5年度実践の記録「いなよう」第37集 秋田県立稲川支援学校

**【資料：R6の実践より、授業づくりのポイント】**

・「聞くこと・話すこと」の授業づくりのポイント

題材の設定	興味関心、実体験、共感、必然性がある題材 実態に合った題材
単元の設定	「どんな学習活動を通して」「何が身に付くか」が分かる単元名 「知識及び技能」を「思考力、表現力、判断力等」を通して指導することを踏まえた単元目標 単元を通して身に付けさせたいことの精選
授業の展開	「聞く・話す」相手への意識を持たせる。 「聞く・話す」目的や役割を明確にする。 「聞く・話す」情報量を整理する。 教師が適切に介入する（子ども同士をつなぐ言葉掛け、徐々に子ども同士の関わりになるように）。 発問、発言を補う視覚的な支援を用意する。
学習環境	適切な座配など、教室環境を整理する。 安心して気持ちを伝えられる、子ども同士、教師と子どもの関係づくりをする。

・授業づくりの基本として、大事にしたいポイント。

準備	子どもの思考をシミュレーションする。 子どものつまずきをシミュレーションし、対応策を講じる。
導入	学習活動、振り返りにつながるめあてを提示する。 （子どもから引き出す。） 単元計画を提示する。
展開	子どもが考える時間を確保する。 活動や思考の流れが分かる板書をする。 子どもの実態に応じた発問をする。 ワークシートを用いる場合は、適切な作業量になるようにする。 個から集へ、集から個へなど、効果的な展開をする。 効果的な場面でICTを活用する。
振り返り	本時の学びを子どもが自分で評価する場面を設定する。 できた理由、つまずきの理由を言語化する。 身に付けた資質・能力を価値付ける。

参考：「秋田の探求型授業」の基本プロセス

**「秋田の探究型授業」の基本プロセスを機能させた授業づくりの充実**

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通し、学習過程におけるそれぞれの段階をしっかりと機能させた上で、一連のプロセスとして関連付けて捉え、授業を展開する。



## あとがき

今年度4月に2年計画で『聞くこと・話すこと』に焦点を当てた国語科の授業づくり～おもいを伝え合う場面の設定を通して～というテーマの基、研究に取り組むことが研究部から提案されました。そのときに「なぜ国語科なのか」「各教科等を合わせた指導のほうがよいのではないか」「教科別の指導で行うとすれば、指導形態は個別なのか、集団なのか」「『伝え合う姿』とはどのような姿なのか」など、多くの質問や意見が教員から出されました。それを受けて、研究部を中心に検討したことを説明して、共通理解を図った上で研究に取り組み始めました。ここでよかったと思ったことは、教職員の中から研究のテーマや方向性について多くの意見や質問が出たことです。これは、教職員の研究に取り組んでいこうとする主体性を感じました。また、このことにより、研究の方向性についての共通理解が深まったように感じました。

6月になり各学部の「伝え合う姿」が提示され、その姿を目指して授業実践、研究授業の提示が行われました。その内容については、この冊子に記されているとおりでありますが、3回行われた授業研究会では、他校からの参加者の方々を含め、活発に協議や意見の交換がされました。成果と課題が明らかになり、そこからどうすれば課題が改善できるか、どうすればできるようになるのかなど建設的な意見をたくさんいただくことができたのも大きな収穫となりました。

今年度国語科で実践して明らかになった成果と課題を令和7年度の研究に引き継ぎ、可能であるならば様々な学びの場で生かすことができるような成果を明らかにできればと考えております。今年度の研究を推進するに当たっては、秋田県教育庁特別支援教育課や秋田県教育センターから多くご指導、ご協力をいただきました。また、全校授業研究会に際しましては、湯沢市教育委員会指導主事 北林尚子様、湯沢市立山田小学校教頭 仙道英悦様から貴重なご助言をいただきました。様々なご助力をいただくことができここに「実践の記録いなよう第38集」を発行することができました。今後も、よりよい授業づくりを目指して実践を積み重ねていきたいと考えております。つきましては、関係の皆様には本紀要を御高覧いただき、忌憚のない御意見・御助言を賜りますことをお願い申し上げます、あとがきといたします。

教頭 時田 航

# 研究同人

校長 小山 高志      教頭 時田 航      佐藤 貴子      事務長 草薙 均

## <小学部>

室井 克典  
佐藤 深雪  
金澤めぐみ  
高橋 美咲  
佐藤美智子  
牧野 花凧  
高橋沙也香

松田 宏  
笹山 友美  
久保市昌子  
高橋 陽美  
佐々木奈央  
福地 恵  
後藤 由佳

遠山 洋平  
佐藤真紀子  
小形美穂子  
藤平 陽子  
佐々木麻理奈  
高橋 靖子

## <中学部>

鎌田 次美  
佐藤 早苗  
笹原 啓  
大沼 恵子

伊藤 優子  
岩井小百合  
山口 梓  
佐藤ますみ

大沼 護  
阿部 哲哉  
今野 貞子  
佐々木菜摘

## <高等部>

近 裕樹  
小西 和晴  
青木 真一  
鈴木 顕  
築瀬 智佳  
和泉かく子  
森谷 寿子

赤川 裕通  
鈴木 朋子  
近 亜希子  
季子 康太  
石川 慈花  
佐々木美穂子  
松岡 一

佐々木理枝（研究主任）  
青木 真一  
小田長裕之  
伊藤 文子  
渋谷 康之  
佐々木麻杏子  
菅 香

## 令和6年度 実践の記録「いなよう」 第38集

発行年月日 令和7年3月

発行 秋田県立稲川支援学校

〒012-0104 秋田県湯沢市駒形町字八面寺下谷地33番地の2

TEL 0183-42-4424 FAX 0183-42-4874

ホームページアドレス <http://www.inakawa-s.akita-pref.ed.jp>

メールアドレス [inakawa-s@akita-pref.ed.jp](mailto:inakawa-s@akita-pref.ed.jp)